



獨度涅烏斯草木譜

初稿本

洋学文庫

文庫 8

F 4

7



新合

才一甚香
於十三草
九葉一芝
竹佛甲草

初編才五套上

總計百八十二
竹葉圖六十九種
合三百五十五

獨度埋焉斯州木譜

初部第廿五卷

十一

共十四冊

四套三冊

獨度涅焉斯初編皆終

上

才一章

「ステルキリンゲンテロイテ」

品類

今此章ニ載スル処ノウエインロイテヲ「ステルキリンゲンテロイテ」

ト名ルモノハ是自餘ノロイテノ「ペリコシ」一名「シントヤンスコロイト」

ノ形状アルモノト其カ別ヲ為シカ為ナリ且此ステルキリンゲンテ

ロイテニ二種アリ其一ハ園中ニ生シ其一ハ山上ニ植ス又別ニ

野生ノモノ数種アリ彼ハルマラレノ諸種モ野生ロイテニ充ル

モノアリ我之ヲ次篇ニ説カン

形状

才一種園生即チ「ホフウインロイテ」ハ多ク枝ノ小樹ニ具

高息スルヲ大抵三尺許又或ハ之ニ過ク其木杯茎ハ白皮以

テ之ヲ波フ其脇枝ハ色大茎ヨリ緑ニ葉ハ密着緻附
ノ許多ノ枝中ニ分布ス其ヨリメ又數多ノ小葉ヲ生スル
羽翅ノ如ク其數不齊ニ小ニノ濶ク滑圓ニ滑ニサク脂氣ア
リ其色青ク或ハ灰白又或緑青ナリ其枝ニ黃ニ輝ナリ
四瓣小凹ノ小花ヲ開キ其中央ニ子球アリ其子球アル処ノ
數ニ隨テ四稜或ハ稀ニ五稜ヲ相為ス其周圍ニ黃ニ其アリ
其ヨリメ又黄色ノ細小針ヲ出シ子ヲ具球中ニ結フ根ハ不抹
ニノ鬚多ク自ラ中ニ同結ス此ロイテハ其香甚メ其味
甚辛シ

タカトウ
ツカセクサ
芸香種

オニ種ハ野生ロイテ中ニモ最大ナルモノニ葉截断シ自他
ノ野生ヨリ秋長ニメ諸部景色凡ニ園生ノモノニ似タリ此一種ハ
大ニノ高ク自餘ノモノハ小ニメ其葉秋シ凡テ野生ハ園生ヨリハ
其香重ク其味辛シ
オニ種ハ山生野種ロイテ中ニモ最小ニメ其形状ハ園生ノモノ
ニ似タレ其葉細ク秋クメ截断ス且其色モ餘種ヨリ白シ花
及子球モ他種ニ似タレ稍小ナリ此一種ハ香味凡ニ勝レテ強
烈ナリ○我前ニ云ル如クウツクシロイテノ野生ノ諸種ハ次ニ
載スル処ノハルマテトハ甚異ナリ

出處

才一種園生モノハ多分園中或乾陽ノ地ニ生シ又好テ
石地崩家ノ傍或硝土碎石アル処ニ生ス或人云此草膏自腹
ノ地ヲ好マストアリユエ云灰ヲ以テ之ヲ培スト

才二三種ハウイロイテハ山上及熱地所謂カンヂヤカッパドレン
イタリヤイスパヤシ及ゴリチイジノ山上自歸此ノ如キ処ニ生ス
アリユエ云好テヘイゲボームノ傍ニ生ス其下ニ植スルモノヨリヨク
ナルハナント○此草ヘイゲボームニ接スルヲ最上品トス其法

ロイテラ以テヘイゲボームノ皮間ニ挿シ亞エラ以テヨク之ヲ固附
ス○チヨスヨリテス曰園生ロイテヘイゲボームノ皮間ニ生スモノ

最佳ニメ又食料ニ供スルニ堪エト○アリユエルキユス其書ロイム

ホシカ才五卷ニロイテ其一本ハ月美ニ味^味掺^味醋ナラズ是具

ヘイゲボームノ月美氣ヲ分泌ノ此草ノ性味ノ不佳ヲ抑制ス

ルモノナリト也^也凡今我之ヲ考ル此草ノヘイゲボームノ高方ニ生

ノ其香強カラズ其味辛カラハ是ヘイゲボームノ其培氣ヲ

土中ニ受ルルモノヲ吸引スルカ為^為此草ノ性知并ニ辛味

ノ氣ヲ減却スルモノナリ

時侯

ドイツラントニテハ七八月ニ草ヲ餘國ニテハ稍早シ

名義

此草ヲラシニリユタヤ爾名スアリヤヘカシ云フ

其起因ヲ原メルニアリユタルシユニ一六五カイムガリアカカオ三卷
ロイテハ其性燥合併シ人精ヲ收斂スル功アルカ為ナリト○
アロコウス云取之ヲアリロコント名クト

オ一種ヲ和蘭ニホフロイテエイゲンテレイキロイテ又ハウエイ
ロイテ云ホゴドイワシテウテンレハカインラウテ云ア
ルスニユト云ベノハスシテウタト云イスハヤシアリユト云
フランスニユトガラルゼント云イタリヤ及オホカニハテシ
以テユタト云

オ二種ヲシリユーステリスニ名リコタモシタト云オリシヤシハ
ノシオレイノシト云是皆山生ロイテレノ義ナリ又ヘガシヤグリ
ヨシト云野生ロイテレノ義ナリオホカニハテハ未タ和ラズ○オ
コリテ云野生ロイテレノ根ヲキリシヤシニオレイノシト云山
生ロイテレノ義ニシテラテンニハオレイノシト云
オ三種ヲ和蘭ニ極最ノ野生ロイテレト云是ヲシテシリユ
シリユーストリスト云カカガナリ

性質 此ロイテレ燥熱籍甚オ三度ニ當其野生ノモノハオ
四度ノ燥熱ナレカ為メニ尚猶強シ凡テ此草氣氣微細
ニシ風氣ヲ驅散シ粘稠液ヲ透透ス

玉治

ガレニユス云此草質ツ言ノ如ク微細トルカ為メ小水ヲ利シ風氣ヲ駆ル是以諸腫瘍膨脹ヲ治シ溜飲ヲ節止シ消陰乾燥ニ是具質ノ剝盡ノ燥アルカ為テリ○チヨコリテス云此草盛熱利尿通経シ又下利ヲ止ム宜ク飲料ニ和シ服スベシト○ロイテ子ヲ酒ヲ以テ服スル寸ハ諸毒ニ中テ死ニ且クトスルヲ解ス○此草ノ葉單味或ヲツレノ一ニ及乾ベイゲレヲ以テ食時ニ用レバ諸患氣ヲ攘ヒ又傳深病ヲ治シ諸ノ解毒ニ功アリ此事ヲチヨコリテス及我徒ノ唱ルニアラスガレニユス云其食物切能譜身ニ卷ニ之ヲ

録ス又アリユス其也オハ卷ニ云此方始テシトリダテス玉ノ書ニ見ヘタリコレンケンサウツレヲ以テ服スト又其言ニ哲玉ヲトリダテスノ手自ラ選修スル葉方製煉ノ其中ニ乾カツケルノ一ニツベイケシニツロイテ葉ニ十枚相合シ搗キコレンケンサウツレヲ和シ空心ニ少ツ、服スレハ終日毒氣ヲ拒リニ大功アリト○チヨコリテス云ロイテハ毒蛇及ナリテレシ或アリテレシノ咬傷ヲ治スルニ大功アリト○之ヲ飲食料ニ和シ服レハ精水ヲ枯燥ス○又蔞蘿ヲ以テ煮服スレハ腹中腸痛ヲ和○此草諸般ノ胸腹痛ノ寒ヨリ来ルモノ及喘急呼吸短迫咳嗽及肺ノ閉塞

ニ其良ナリ亦飲料ニ和服スルハ骨節痛ヲ治ス○又瘰ノ具
熟来ルル前ニ當テ服スルハ其再發ヲ拒ク申ミ莫ク多ク戰
慄スルニ尤佳ナリ○油ヲ和シ煮水鏡劑トナシ注クハ直腸ノ腫
瘍及疝痛ヲ治ス又燉熟風氣腫及子宮衝逆ヲ治ス○
搗テ蜜ニ和シ婦人陽部或直腸部ニ貼スルハ前ノ子宮衝
逆ヲ治ス何トナレハ「プリミス」云子宮上ニ貼スルハ之ヲ開通ス
是具也オヤセ卷ナニ草ニイリリタト、ヘクトレ「元又イリリタ
ト、ペクナ子」レ元載セテ即子宮衝逆ニハ蜜ヲ和シ全腹ニ塗
搽スヘシ而ノ具胎ニ及ス「ナカレ」ル寸ハ病ニ利アラスト云義ニ

○又油ヲ和シ燒テ溫服スル寸ハ虫ヲ驅逐ス○蠶ヲ和シ用ハ
支節疼痛ヲ治ス○又「イゲシ」ヲ和シ外貼メ水腫ノ一種所
謂「ロホ」カ「ラ」治スルニ甚良ナリ又宜ク酒服スヘシ之ヲ服シ
或ハ外搽スルハ其氷氣ヲ通利ス○又生ニテ鹽ヲ以テ用ル
ハ顔ヲ美シ目ヲ明ニス○「ンケル」及「蜜」ヲ和シ外搽シテ
目ノ暗翳ヲ治ス又烘乾大麥粉ヲ加ヘ貼スル寸ハ其瘰ヲ和ス
○「ロ」セ「油」及「酢」ヲ和シ搗テ前頂ニ塗ル寸ハ頭痛ヲ治ス○
「ウ」リ「イ」ル「葉」ヲ和シ「陽」莖ニ貼ル寸ハ其燉熱及瘰腫ノ瘰
ヲ和モ其瘰ヲ消除ス○「ノ」ル「ヒ」ニ「葉」ヲヨビ「セラ」ト「シ」ヲ和シ用テ

痘瘡麻疹及自餘此等ノ瘡腫及腫瘍膨脹大アリ
○此葉ニ酒燂硝及胡椒ヲ和シ外貼スルハ諸癩点ヲシケル
レシ及白斑ヲ治シ皮膚ヲ養フメニ善トウシム又息因疣贅ヲ治ス○
又蜜白凡ヲ和シ用レハ「ゴ子」及諸般ノ患性カラ「ワギン」
ヲ治ス○此液汁ニ「ガラナート」アツル皮ヲ入レ温テ耳中ニ注ケハ
其痛ヲ和ス○右ノ液汁ニ「セリユイセ」醋及玫瑰油ヲ合シ用レ
ハ「ウサルトヒール」^カ「ロリス」及「アコレス」ヲ治ス○「チヨスコリテス」云此膏
ヲ鼻孔ニ刺シ或ハ外貼スルハ「衄血」ヲ止ムアリ「ユス」モ亦其言
ノ如シ也「ヒレ」今「我」之ヲ考ルニ此草ノ「辛」^根「テ」ルカ為メニ其「衄血」

ヲ止任スルヨリハ却テ破綻スル功多カルベシ○此草ヲ啗メハ
葱韭ノ辛ヲ辣ナル猶ロニ適セシム是其白ヲ減スルノミ○此葉
ヲ搗キ酒ヲ和シ用レハ諸毒ヲ解スト「アリ」ニ「ユ」云ヘリ○「チヨスコリ」
テスレ云此草ノ子ヲ酒服スルハ諸毒ヲ飲タルニ即功アリト○「アリ」
ニ「ユ」云「アコ」ニ「テ」云一名「ウラル」フスラ「ル」テ「ル」或「イ」キ「ヤ」及諸般
ノ毒物カムヘル「リ」イシ或「イ」ヘル「ス」ブルト「レ」ノ毒ニ中ルハ「宜」ク此
草ヲ飲料中ニ和シ用ユヘシト○又蛇咬ニ大功アリ○又此汁ヲ身
中ニ塗ルハ「ス」コ「ロ」ウ「ン」^レ蜘蛛馬蠅ハルセ「レ」自餘此等ノ毒虫
ノ害ヲ避ク「アリ」ニ「ユ」云此草空心ニ服スルハ終日毒虫ヲ拒ク又云

此草ヲ燒キ薑セハ蛇之カ為ニ遁逃スト○又古云ニ此草ヲ解
毒ニ大功アリ其言ニシユステレン及ウセルケシハ蛇ト相戦フノ
片ニアメリテハ先此草ヲ食ヒ以テ其身ヲ鎧スト○此液汁又
獺犬咬傷ヲ治ス分量十六錢上好酒ヲ以テ用ユヘシ又或ハ此草
ヲ細ニ搗キ鹽蜜ヲ和シ其疵ニ貼ス○ロイテ油ヲ作り之ニ麻
仁油ヲ和スレハ内部ノ疼或ハ疔痛及腸ノ事急ヲ治ス加之又
睥ノ硬結及腫瘍ニ尤佳ナリ

撰修

此草園生ノモノヲ上品トス已ニ前ニ云フ如クハイゲレボ
ムニ接木ニ或ハ其辺ニ種タルモノカニモ猶諸方ニ生スルモノ

最勝レリ宜ク野生山植ノモノヲ用ルナラバ精煉スヘシ

指書

此草諸事ニ大功アレバ亦大ニ生音ヲ妨ケ精液ヲ

消散スルヲ甚シ又野生ノモノ取モ禁断スヘシ何トテハハ
スクリテスレノ言ニ從ハシニ之ヲ多く食ハハ大害アリ殆ト人ヲ
死スルニ至ラシムト

附考

爰ニロイテ即チテシノリヲマシノ名ヲ冒ラシムルモノ數

種アレバ是ハ諸草ノ異名ニシテ今ハハ子ナクシ記スル処ノロイテ
ニアラス何トテハハハユタニユラリヤ一名スチロイトタルモノアリ
是我祢スルロイテニアラスハユタプラテンシス一名ベアテールト

モ似ス即カテインブレイトレノ一種ナリ又リユタニテ種類ニシコ
ルロユラリヤレナルモノアリ和蘭ニ之ヲヘルムコロイトトエフ又一種
此ノ如キ類ニリユタシルヘストリスナルモノナリ是前ノカコロロユラリヤ
一名大スペインコロイトト一種ニシヘイペリコトト異ナズ○又カ
トリユムラモリユタ。プラテシスト名ク是ヘフレナルトト異
ニメリユタ。プラテシストトモ別種ニ又ウエインロイトトモ異類ナリ
今我之ヲ説セン○ガレカレモホリユタ。プラリヤレノ名ヲ冒ラ
シムルテ自餘ノ諸草ニモ此名ヲ附スルニ右其別名ヲ保
スルカ為メニ又能ク知ルヘシ其内ニシントヤニスコロイトト名ヘイペリ

コシノ種類中ニリユタシルヘストリスヘイペリコイデスノ名ヲ以テ
之ヲ刺ス○ロイトレノ子ハ大瓶一莢一子ヲ保會スル微小ニシ
其色黒シ是其容モ終之アルモロイトレノ葉ノ中ニモ野生ノ
ロイトレノ葉ノ如ク其容ヲナスル能ガルヲ以テ古ハ多分之ヲ用
テ功ヲ當時ニホシイマ、ニス
カリスウスノ山生ロイトレ此草トシテウツノ野生ロイトレ中ニ連
説スルモノ終之アレ瓦高學士カロリユスクルシウスハ別ニ一圖ヲ
ナシ又好草家ヲ其説ヲ好ニスルカ為メ今其出ニ從テ之ヲ
定ム○カリスウス其出異草譜才三十四之早ニ曰許多ノ葉

アリテ地上ニ蔓衍シ細断小截ノ影ク分配シ其色緑ミシテ
輝ク白色ヲ帯ブ其香ハ強クノ重シ根ハ長ク白クノ木ノ如ク
時ニ或ハ太キ丁小指ノ如キモノアリ二三茎ヲ出シ而復々三四股
枝ヲ具エ方々チ花ヲ保スル丁園生コイテハ似タリ花名方
採ラシメ小思子ヲ具内ニ倍ブ其味辛シ此コイテハ香氣甚
強ク其辛辣ナル之ヲ三稜ノ草倫ヲ以テ年中ニ保握
スルニ其刺戟乃チ知覺ス其較著ナルモノハ之ヲ摘テ其子
ヲ以テ顔面ヲ搽ス左智ト昂チ發泡腫起ス又ウキルトヒル或ハ
ロセシ大痛及燃熟ヲ兼ヌルモノアリ是クルシウスニ屢見ル也

ナリ其末々是此草ナルヲ知ラガル人之ヲ取リ其青草ニシ
涼清ナラシト思ヘ大陽ヲ拒カンカ智ニ頭上ニ戴クモノアリ無他
即苦病ヲ治ス是具全頭ノ脂肪ヲ大ニ刺衝スニ因テ即
大疾ヲ瘳スルモノナリ宜ク適良ノ糸劑ヲ以テ之ヲ治スベシト
○此草ノ辛辣ナルカ為ニ或人トハ子ウ区ノ野生コイテラ末
篇ニ載スル極最小ノコイテト其性相交混スラト疑ベトレ此
トハ子ウ区ト言ハルテコイテラノ別種類ハ其辛辣稍具右
ニアリト云ヘリ○クルシウス曰凡此種ハイスパミヤレ及フランス中
ノコランギニドクノ乾土石地及枯瘦焦熱ノ處自餘此等ノ熱國

ニアリテ六七月華キ九月子熟ス和蘭ニ之ヲ種スル其
茂スルヲ大抵ニテ年ニシテ又能消散ス其寒氣ニ逆フカ
為シ其開花后即チ消失スルナリ○イヌハヤシハウタト
通名スプリユスハ之ヲウタマスト云即ヘイタゴラニカ所謂
ウイテマシケシ義ナリ○又チヨネナリトスル野生ウイテ一名
ヘガシカラヨシ其根ヲウケルイモレイト名ク同子ウタウケルテロ
イテレノ条ニ説クカ如シ

カンダヤ之野生ウイテクルレウタ云此草前種ト異ナラズ是カン
ヂヤ島ヨリ移シ植ルルニメ之ヲ種スル其明年乃華ク其稍

上品ナルモノハ是具地勢ノ美イルカ為ナリ此草葉又細
截ノ其香甚重ク且強シ花灰色ニメ四瓣ヲナシ方球アリテ
九月始ニ至テ乃見出ス是カンヂヤヨリ輸スルノウケルウイテ
一名ウイユタシルヘストリスナルモノナリ

有毒ウイテ 此草ヲウイユタヘ子ナクナ名ウイテヘラト名クルモノハ是
之ヲ一タニ服スルハ人ヲメ死セシムルカ為ナリ○アングユイルラ云此草
イタリヤニ生ス知人ノヲホーグリヤト云形状ハ山野生ウイテニ甚似
タリ但シ毒アリ中ニニ礁上ニ生スルモノ最毒アリト○ウイリユス云
此類ノ野生ウイテラ又マセドニイシニ見タリ多分アリヤコモ川

ノ辺ニアリ具辺ニハ許多ノ蝮蛇及ナリテルスタンゲンアリト具
書廿卷才十三章ニ見タリ

出叟 此野生コイテハ如何ホト焦心覃志スレテ園中ニ種ル寸ハ

敢テ経年スル寸トシ○イタリヤニテ之ヲ蕃茂セシメント故ス

ルニハ之ヲ盗ミ或ハ愚言罵詈ノ之ヲ種ル片ハ乃具茂殖スト

是言オセイニム一名「バシリコン」モ云爾トニメ愚論極説理

ニ於テ取ルベカラズ之ヲ滋息セシメント欲セハ豆及蒜中ニ種

スヘシ○又處ニヨリ具高ク七八尺許アリテ根ハ甚堅ク木ノ

如キモノアリ是以具新根ヲ生セカ為ニ年々具根ヲ切断ス

○コイテハ膏腴ノ地ヨリハ荒土ニ種ル寸ハ乃茂殖ス宜ク

具ニ灰ヲ和スヘシ取ラサレハ虫害アリ之ヲ地中ニ食ヒ易シ

○此草タトヘ膏腴地ナリトモ宜ク園生畷殖死ニ燥掘ミシテ

風ナク高潤ノ処ニ植ヘシ是以種樹家ハ朝、灰ヲ以テ植ル

ノミナラス尚金冬灰以テ之ヲ液フ是具灰ノ温暖ニ由テ能

其寒ニ涼ヲ拒クカ為ナリ

時侯 コイテハ蔣クヨリハ具根及枝ヲ移シ植ルハ乃盤茂

スレテ具種ヲ蔣ノトセハ宜ク三月八月九月ノ中ニ於テスヘシ

且此草只トルタケ花サクコトヲ要セズ何トテハ花サクハ其六

消散スルヲ其早キカ為ナリ

名義

オ一種ト云子ウス云尋常ロイテ「イスバヤシ」ハ「リクタ」ニ
アリユカ「ル」云モ「ル」ニテハ「セデブ」ニ「ロダブ」ニ云フト

オ二種野生ロイテ「ハ」ラテシ「リ」ユタシ「ル」ヘステリス「ト」云「ホ」ゴドイツ
ニテハ「ワ」トリユイテシ「ト」云「フ」ラシス「ニ」カ「チ」アゲ「ト」云「イ」スバヤシ「リ」ユタ
カルハゲ「ト」云「イ」タリヤシ「リ」ユタサルハ「チ」カ「ト」云「エ」ンゲルス「ニ」ウ「サ」ル「デ」リ「ユ」
ト云「ロ」ベル「云」葉局「ハ」ハ「ル」メル「ト」云「ト」子ウス云葉局ニテハ
多分此草ヲ見ルヲナシト
オ三種最小ロイテ「ロ」ベル「ハ」ラテシ「ニ」之ヲ「リ」ユチユラ「ル」ユタ

シ「ル」ヘ「ス」トリ「ス」ミ「ノ」ル「ル」ニ「カ」ニ「ヨ」シ「ナル」ボ「子」シ「ユ」ニ「云」「ル」ニ「云」「エ」ンゲルス「ト」云「マ
ル」レ「ウ」サ「ル」デ「リ」ユ「ト」云「フト

性質

或云此草不潔ノモノヲ佩ヒ或ハ月経アル婦人ニ觸ルハ
其ハ作テ消散腐敗スト

園生ウイロイテ主治

此液汁、ロ「セ」油「ラ」ウ「エ」ル「バ」イ「エ」油「及」
蜜ヲ和メ耳中ニ滴シハ耳聾及耳鳴ヲ療ス之ニカストレユム「ラ」加シ
ハ尤佳ナリ○右ノ液汁ヲ飲報シ或水鏡「ト」ナシ注ケハ其性ノ温
暖ナルノミナラス尚不測ノ質アリテ諸腸ヲ強ホニス○右液汁
酒ニテ服スシハ婦人産后ヲ淨滌シ且肥衣ヲ下シ又死胎ヲ下ス

○此草食物飲料、交セ長服スレハ前ニ云如ク膏、精液ヲ
驅散スルニ、エラス尚男子ヲメ子ナク乳婦ヲメ終ニ具乳汁
ヲ乾涸セシム○此葉ニ「ルケンサイセ」ヲ交セ貼スレハ諸疥癬
頭瘡及疔リイ此腫ヲ治ス○又蜜ヲ和スレハ瘡及四肢
ノ瘡ヲ和シ又「イゲン」ヲ合スレハ潰瘍ノ水液填充スルヲ
治ス○此液汁ニ「醋」ヲ和シ白鼻中ニ保スレハ昏睡ヲ醒解ス○
此根ヲ末トナシ蜜ヲ和シ塗ル寸ハ血ノ内ト脂肪トノ間ニ凝結
スルヲ消散シ且青斑及諸ノ斑点ノ四肢ニ及波スルヲ治ス
○此草ヲ煮或ハ久ク浸シタル油ヲ臍充部ニ塗ル寸ハ四肢

ヲ温暖シシ小水ヲ利シ且水鏡トナレ注リ寸ハ臍ノ諸患ニ良
ナルヲ前ノ液汁ノ処ニ云フカ如シ○此草ノ子諸種疝ニ「コシト」ペリイ
ルズノ菓劑ニ多く用テ痛風ヲ治シ且如人ノ一病ヲテシニ「コラ」
ト名クルモノヲ治ス其症塊アリ思エキ乎トメ殆ント胎児ノ如シ
且液ノ子宮中ニアルヲ治シ天ヲメ快復セシム○此草搗テ膏ト
ナシ之ニ「テ」スセハ「ルケンサイ」イセ「アユイ」シ「ヘイゲン」生石灰石礬
芫青及的里豆加少許ヲ加ヘ貼スレハ「ヘ」スチ「ヘ」コレラ膨張セ
シム○此草雨水ニ煮テ下利ヲ止住ス○又「ア」ビ「ル」ヲ和スレハ
眼痛ヲ和ス○此子ヲ蒸焼シ服スルヲ七日ニ遺尿失禁ヲ治ス

○又乾蒟蘿ヲ和シ服スルハ遺精ニ良ナリ○此液汁ニ蜜或ハ
新産婦人ノ乳汁ヲ和シ或ハ單液ニミテ服皆ニ貼スルハ其腎膜
ヲ公ル○油ヲ和シ煮テ膽光ヲ浴スルハ小便ヲ利シ其眩暈ヲ浴ス
○醋ヲ和シ搗キ用テカラボシケルヲ浴ス○此草ヲ煮貼メ乳
ノ稠硬ヲ浴ス又蠟ヲ和シ貼メ其水沫液ノ破出スルヲ浴シ
又ハ痔及身中内部ノ諸患ヲ浴ス○傳染流行ノ疾ニ當テ
此根ヲ燒テ家中ヲ薰スルハ好ホク出ス○此露水又前ノ
諸病ニ甚佳ナリ○酒ニ煮テ漱ケル銀瘡ヲ浴ス○

ロイテ之ヲリヤカ

ロイテ之ヲリヤカ
ロイテ之葉ヲ取リ切斷シカク搗ケシ子ベル

ベシイン^ノオウケル^ノー^ン乾^ハイ^ダシ^ラ合^シ之^ヲ搗^テ酢^ヲ
加^ヘ之^ヲ布^巾ニ漉^過シ出^遊ノ^前ニ當^テ空^心ニ服^スル^{コト}ハ
ヒ 此草ノ諸般ノ中毒乃虫毒ヲ解スルカ為ニ或人々^ヲ以
テ^テリヤカ^ヲ作^リ服^メ身^中諸^毒ヲ解^シ且^傳染^病ヲ浴^ス
スルニ大功アリトス

製ロイテ油法

ロイテ之ヲ細截テサク搗テ硝子ニ入レ古油ヲ

和シ大湯ニ晒ス^{コト}五十日ニ其ロイテ^ヲ空^リ又新ロイテ^ヲ
入^レ又大湯ニ晒ス^{コト}四十日如此スル^{コト}三度ニメヨク漉^過シ収
貯^聽用^ス

ロイヤルノ珠用

アリストテリス云此草諸魔ヲ拒ク刀為メニ
又精液ヲ駆散スルニ月ユト○蛇ノ園中家内廐裏ニ出ルカ
有ニ宜ク園中雞罍羊廐及処ニ之ヲ重積スヘシ何トナレハ
此草ノカゲアル処ハ蛇アケチセシ及自餘ノ毒獸敢テ
近ツカズ豈尤ノミナラヤ其較著ナルハ雞罍鳩舎ニアル処ノ
猫及ユリユウエイ子シモ尚之ヲ駆逐ス宜ク其戸ロニ置ヘシ
○又此葉ヲ以テ死体ヲ洗ハバ永ク其腐敗及忠臭ヲ拒ク
○登及ワントロイセンラ一処ニ放逐セント欲セハ宜ク此枝ヲ以
テ灌クヘシ又此葉ヲ以テ具処ヲ撒スレハ尤佳ナリ○又文章

ヲ深字ニセント欲セハ宜ク銅録カツフランシサ許ヲ加ヘテ合
メ之ヲ搗キゴムワールシラ加ヘシ又其代ニ此草ノ煎汁ヲ用
ユヘシ

ロイヤルノ損害

此草野生ロイヤルトモニ其香及液汁大功ア
レトモ時トメ大毒ナルヲアリセコトランドレニテ種樹家此草
ト野生ロイヤルトモニ切テシテ種ルヲ数日外トヘラハルトモルニモマ
ヨ其名顔面癩熱シ施テ兩年ニ及ブコトアリテ多少野生ノ
ロイヤルニ同シ○此草并ニ野生ロイヤル共ニ胎児ヲ殺スル為
ニ之ヲ食フコト禁スヘシ且多食ハ男子ヲメ子ナカラシム○

或云傳深流行ノ片ニ當テ此草ヲ体中ニ保スルハ傳深ヲ拒キ且
ウキルトヒールレヲ拒ク取レ之ヲ鼻辺ニ近ルコト勿レト

野生ロイテ 主治

此草痼症及痛風ニ甚良ナリ又月経ヲ通シ
且其胎児ヲ殺スルガ為ニ之ヲ食フコトヲ禁ス○又古キハルケルシリ
イセシテ交セ貼メ疥癬ヲ治ス○此液汁ニ蠟ヲ和シ塗ルハ四肢ノ毀
傷ヲ治ス○又蜜酒ヘンケル汁及ホメレノ胆汁ヲ和シテ顔面
刺衝シ其斑點ヲ去リ眼ノ翳膜ヲ除ク○功能凡テ園生
モノニ甚似タレモ總テ強烈ニシテ甚勝レリ其強烈ナルガ為
メニ古ノ藥劑ニ翹前ノ眼目ノ疾ニ用ルル外敢テ用ヒズ

野生ロイテ 殊用

或云此草ノ汁ヲ鰯雞ニ塗ルハ猶敢テ之ヲ

食ハスト

野生ロイテ 損害

其香強烈ナルヲ以テ大毒アリト豈夫ノミナラ
ンヤ之ヲ嗅クモ猶害ヲ貽ル何トナレハ可レハルニ云シラ目ニ見
キニ觸レハ其毒氣ヲ顔面ニ受クトクルレウス云顔面ニ觸
ルレハ乃ウキルトヒールレ及疥癬ヲ生ス就中塾土ニ生スルモノ
尤強烈ナリトコセドニイシ之アソギユイルラハ云ヘルコトアリト
アリユス云ヘリト○山生ノロイテヲ摘テ塩漬ニセト要セハ
宜ク其摘トスル前ニ當テ同ルレケルル一名シクダ汁ヲ以テ

其手及顔面ヲ塗リ以テ其容ヲ拒クヘシ否ラサレハ皮膚層ヲメ
大抵アリテ痒ク赤色ヲ發シ瘡ヲ生セシトアリニ云ヘリ○
此種類尚且多シ我之ヲ次章ノ附考ニ説カシ

オニ章 ハルマラシ

品類 此ハルマラシモ亦野生ロイテシノ種類ニ算列スレモ猶
其中ニ區別アルカ為メニ互ニ相見知シ易シ

形状 野生ロイテシノ種類ハ根ヨリ數莖ヲ出シ高サ大抵
一「フン子」是ヨリ綠葉生ス其葉甚々切断シテ野生烈
香ノロイテヨリハ長ク且ツ狭シ花ハ白色ニメ莖ノ上梢ニ
生シ五瓣一聚ス花后圓生ロイテヨリ大ナル三稜ノ莢ア
リテ子ヲ具内ニ結フ根ハ太ク長クメ黒シ○此ロイテ
モ亦熱地ニ殖スルキハ其香甚々重クモホーゴドイツ及

和蘭等ノ寒土ニ種ルハ其香強烈ナラス

出處 「カブドシイシ」云此草「カブドシイシ」及「ガラチイシ」

ニス又多クイスパニヤノ不耕ノ地及具岳上ニ生スト

時侯 自餘ノ諸種ニ同シ

名義 此草或之ヲハルマラト云アラビヤニハルメルト云セイ

リンニベサト云ラテンニリユタシルヘストリスト云ギリシヤ

ニ「ベガシアグリヨ」ト云野生ロイテノ義ナリガラチイシ及

「カブドシイシ」ハモレイト云茶局ニテ多クハ知ラズ

性質 此草劇甚ノ温燥具度才三度ニメ甚高シ且具

質微細ナリ

主治 此草消化押壓乾燥ノ性アルカ為ニ多ク粘滑厚

濃液ヲ稀薄ニシ不利ス是以究竟小梗ヲ利スル等ノ

コトニ用テ佳ナリ

附考 「ボウガリイシ」ノハルマラハ「イタリヤ」人ハ野生ロイテノ

一種ニ充テ衆人ホ之ヲハルメルニハルモラニ云此草具地勢

ニ協ハハルヲ以テ宜ク陶壺ノ中ニ置テ其温氣ニ保持スベシ

取ラサレハ寒冷氣ニ因テ乃チ消散ス

セイリイシ之ハルマラ今「ド」子ウ区ノ記セルハルマラト云

載スル処ノモノト大ニ相似テセイリインシノハルマラトシ其名ヲ
所メ「ラテンシ」ハルマラセイリアカト云モノアリ是悉クセイリイン
ヨリ我邦ニ来ルモノナリ甚タ新鮮ナレ其香味ノセイリイン
似タルヲノ甚甚ガナルヲ以テ觀ル中ハ疑クハ是ヲヨスコリ
テスレノ大サモ^イテスナシ其内ニ「ラレギユウダク」ハルマラニ
「セイテ」ニ甚タ相似タルモノアリ○セイリインシハルマラ花ハ
「ヘイペリコン」ニ似タレ白ク其莢ク三稜ニメ形状小セサニユニ
似タリ其内ニ灰緑色ノ子アリ其味ハ辛苦ニメ「白ビル」ニ
子ヨリハ大ナリ根ハ細ク其色黄ナリ

三稜莢ノハルマラ

「ロ」ベル云此草「モン」ペルリイルスノ一種ナリ
其味及其他形状モ尋常クイテニ異ナラサレ其莢三
稜ナリ是以具園中ニ種植シアルヲ以テ考ルニセイリインシ
マラヨリハ此草真ノハルマラニ近シ

クルシウスノハルマラ

此草ハ灌木ニメ一根ヨリ数莖ヲ出シ又
許多ノ脇枝ヲ開キ高サ一尺許其色緑ニメ黒ヲ帯ビ葉
ハ鐵長ニ肥厚ニメ脂氣アリ也暗緑ニメ切斷甚タ深ク
アシトダニ葉ニ異ナラス其味粘リテ脂氣多ク少ク苦味
ヲ帯ビ其枝ノ上梢ニ五瓣ノ白花ヲ開テ「ト」バ子ウスレニ記セル

ハルマラシノ如ク其内ニ深黄色ノ蕊アリ續テ莢ヲ結フ其莢
園生ロイテシノ莢ヨリ大ナレモ柔靱ニシテ三稜ニ子ヲ具中ニ
括ブ其形状不齊方ニシテ灰色ニ黒ラ帯フ根ハ堅ク其
太リ韌ニ小指大ニテ鬚多ク其色黄ニシテ輝ナシ自餘ハ
子ウズレノ記スル処ノモノ如シ全草ノ香不美ニシテ烈シク
ウズレ多ク之ヲイスマニヤレシト見ルニ七八月膏腴ノ地ニ華キ
子ハ九月熟ス又十月ニ至テ華キ子熟スルモノアリト和
蘭ニテハ其寒冷ニ堪ヘサルカ為ニ華クコナク之ヲ園中ニ種
ルモノアレバ其莢空虚ニシテ木々具子ヲ結フモノアラス○
ト云フノ義ナリ

子ウズレ及ロシトモ此草ヲハルマラシノ種類トナスヲ以テ
クルシウズレ右件ノ名ヲ附スルモノアリ○又カスチルレイシ
ニテハ之ヲガマリシト云フコトハベルロスニ云ハシメ苦キコト
ト云フノ義ナリ

主治

チヨスコリテス及パウリユスエギ子タシ此草下利ノ功
アリ夫ノミナシ此ニ白ヘルレボリユス五十粒ヲ加レハ尤佳ナリ○
又月経ヲ通ス○此子ニ蜜酒サツラレシケンケル汁及雄雞
膽ヲ加ヘ磨リテ顔面ヲ洗ハシ目ヲ明ニストトコ子ウズレ云
リ○ブラロニシテ其備忘簿オセ一章ニ此草ノコトヲ載テ

云「ア」レキサンデル此辺ノ「エ」ゲイフテンノ砂地ニ甚多クシ「ア」ラビヤ
「エ」ゲイフテン「トル」コニテ甚ク使用ス其「エ」ニテ毎朝此草ヲ
燒キ薰シ以テ惡精ヲ攘散スト是「ア」リスステレヒカ尋
常「ロ」イテハ諸魔ヲ攘フト刺セシヨリ采レルモノナラシ是
以テ其「エ」ニ貴フフ甚クメ寒店ナトニテハ之ヲ得ルナク殆
ント奇菜ノ如シ

才三章「カ」ビオセ「ス」ツ「ベ」ノ種類

品類 此章ハ四種ノ「カ」ビオセト所謂尋常ノモノ小ナ
ルモノ中間ノモノ異種ノモノヲ載ス又別ニ古人「ス」ツ「ベ」ト
名ルモノアレバ其種甚異ナリ

形状 尋常ノ「カ」ビオセハ其葉長濶粗糙ニ両脇切斷シテ
殆ント「ラ」ケツテノ如シ其間ヨリメ圓クメ直立シサク筋線
茎ヲ出シ高ク一尺半許ニメサク毛アリ又別ニ如前葉ヲ生
シ根ニ近クニ隨テ大ニ梢ニ至ルニ隨テ小ナリ花ハ其枝ノ細
弱ナル芽ノ上面ニ開キ扁球状ノ中ニ攢聚重積ス其周辺

山蘿蔔
ニツムシ草
ダツキキク
ダツキキク
冬ノ根ノ先

コアルモノハ其正中ニアルモノヨリ大ニ其花ノ正中ニ莖アリ其
色緑ニ禪ナク白色ヲ帯ブ根ハ長クノ地中ニ穿入ス

オニハスカビオセハ其形ノ大スカビオセニ大ニ似タレテ諸部稍小
ニ高ク僅ニ一掌許其他花葉尺ニ大スカビオセニ異
ナラス

オニ中間ノスカビオセモ亦其葉長濶ニノ粗糲ニ其色灰白ナ
レテ尚大ノ一種ニ以スレハ其小ニメ且其両端切折セズメ但其
周辺鋸齒アルノニ花ハ他種ノ如ク扁圓球中ニ重積ス根
ハ長ク細クメ弱シ

オニ四異種ノスカビオセハ其葉切折シ軟シノ毛アリ大ノ一種ニ
似テ莖亦高ク一尺半許其葉ノ莖ニ附離スルモノ亦漫爾リ
其莖ノ上面、扁球アリ其球中ニ白花ヲ開キ其花中、粗厚
ナル子ヲ結ブ根ハ白クメ太ク尋常ノモノ、如シ

オニ五又斯ニ一種其形状大小ノニ區別アリテ前ノ物品ニ
似タルモノアリ但其諸部前品ニ以スレハ小ニメ其花緑紫
ナリ

或人カツイベラ以テスカビオセノ一種ニ以スレテ是正説ニアラス
何者トナレハカツイベラハ一刺草ニメ真ノスカビオセトハ殆ト異

ナリ今我種類ノ甚タ區別アルコトヲ顯ハシカニ爲メニ官
ノ本草ノ古出ニ出タル処ノ因ト又醫人^カベルナル^カユス^カハリユダ
^カユス^カカ^カギリ^カレセヨリ^カ將^カ来^カシ^カ乾^カシ^カタル^カモノ^カヲ^カ以^カテ^カ我^カニ^カ示^カス^カ処^カノ
草^カヲ^カ以^カテ^カ徵^カス^カル^カニ^カ其^カ形^カ状^カ亦^カ大^カニ^カ同^カシ

出處

大スカビオセハ田畠ノ植物刈獲セル處ノ周端或ハ曠野
ニ生ス諸邦之アリ○オニ種小タルモノハ湿润ノ曠野ニ生ス○オ
ニ中間ノモノハ多不耕ノ瘠地ニ生ス○四五異ノモノハポーゴ
ドイツ及和蘭ニハ甚稀ナリ且未タ野生セズ大好草家
カロリユスクルシウス^カ云^カ「イス^カパ^カニヤ^カ」中^カ「カラ^カマン^カカ^カ」白^カ辺^カニ^カ生^カス

ルモノヲ見タリト○スツ^カー^カべ^カハ高學研究ノ醫人^カベル^カニ^カシ^カス
ハル^カダ^カニ^カユ^カス^カ「カリ^カシヤ^カ」ノ^カモ^カレ^カア^カ一名^カ「ポ^カシ^カ子^カ」ニ^カユ^カス^カノ^カ高^カ燥^カノ^カ平
原^カ及^カ「イ^カペ^カル^カ」島^カニ^カ之^カヲ^カ見^カル^カト

時侯

諸種^カ元^カニ^カ大^カ抵^カ八^カ月^カ華^カク^カ異^カ種^カノ^カモ^カハ^カ其^カ華^カク^カ下
甚^カタ^カ早^カシ

名義

此草^カ俗^カニ^カ「ラ^カテ^カ」^カ諸^カヲ^カ以^カテ^カ「ス^カカ^カビ^カオ^カサ^カ」ト^カ云^カ即^カ和^カ蘭^カニ
「ケ^カウル^カフト^カコ^カロ^カイト^カ」ト^カ云^カフ^カノ^カ義^カナ^カリ^カ又^カ「フ^カソ^カラ^カ」^カ元^カ云^カ即^カ「ケ^カウル^カフト^カ」
コ^カロ^カイト^カノ^カ和^カリ^カシヤ^カ「語^カ」ナ^カリ^カ又^カ「ル^カモ^カラ^カウス^カ」^カハ^カル^カハ^カリ^カユ^カス^カ「ア^カ」^カニ^カチ^カユ^カス
一名^カ「フ^カソ^カラ^カ」^カナル^カモノ^カヲ^カ点^カシ^カカ^カビ^カオ^カセ^カレ^カ云^カ其^カ言^カニ^カ此^カ草^カヲ^カ燒^カク^カ処^カノ

薰煙樹中ニ生スルリスペン一名ロイペンヲ殺スト是我徒未
又知ラサル処ニメ且名穩ノ訛ナリ

オ一種ヲ菜局ニテラテンシ名ヲ以テスカビオサセト云我徒ハ之ヲ
スカビオサヒリユガリスフヨルト云尋常スカビオセシノ義ナリホーゴ
ドイツニコユクシウス及如ラギユスノ訛ニ從テアホステモカラウト
ト云或ハホステメカラウトト云又カリントカラウトト云ベームス
ラウザスト云イタリヤイスパニヤ和蘭及エングラントト云
ラテン語ニ因テスカビオサセト云
オニヲラテンシスカビオサミノルト云小スカビオサシ義ナリ

オニヲスカビオサメチカト云名中間ノスカビオセト云又或人
之ヲスカールプススカビオセト云ラテンシスカビオサウナルラト
云フ

オ四五ヲイスパニヤニテハスカビオセシ充テ其名ヲ附ス我徒
ハ之ヲ異種ノ大小スカビオセト云ラテンシベリクリナスカビオサ
又ベリクリナスカビオサシノルト云〇別種ヲ我徒ハスツীবト
云是古名ニメ今時別名ヲ知ラス

我徒今此スツীবヲ鑑定スル所以ハド子ウズノ菜劑
甲ニスカビオセヲバンテカタト記シ而メスツীবト名ケタレト

「スツ」ハ「ト」子ウス其自記スル処ニアラザルベシ意者
当時ノ衆人一ニノ微ヲ取テ無益ノ考校ヲ為シ以テ此
草ヲ録スルモノナリ「ガレニユス」其「アンチド」ト云一巻ニ曰草
灌木株ニ味極メテ辛熱少ク「スベレ」イニ香ノ薰ニ似テ
農夫ハ之ヲコレイムハ一名「スツ」ト云酒ヲ暖ムルニ具タ
良ナリトスト「カレ」ハ其「スツ」ベシ自餘ノモノトハ異ナラカ
「ガレニユス」ノ「カレ」能譜ニ收斂ノ功アリテ「カレ」セズトス是「ト」
子ウス「スツ」ベシト同一「カレ」ナリ「カレ」ハ是切ニ別種ナルベシ
「ガレニユス」モ具ヨリメ此草ナ種アルヲ述ヘリ○「カレ」オ「カレ」

「カレ」其虫オ一卷ニハ「スツ」ベシヲ灌木ノ部ニ録シ具葉
肥厚ナリトス又オ六巻ニハ其葉刺棘多クメ「カレ」ト云一
名「カレ」ケウ「カレ」ル「カレ」及「カレ」リ「カレ」ユス自餘此等ノモノ、如シ
ト又「カレ」子ウス「カレ」ハ云此草「カレ」カ「カレ」セトハ具異ニノ刺衝アル
「カレ」ン又「カレ」ニユス「カレ」ノ云処ノ「カレ」イムハ「カレ」ノ如ク刺甚ク辛熱
アラザルハ又彼ノ草ニモアラスト○是以「スツ」ベシト「カレ」カ「カレ」セ
トハ大ニ異ナレハ此等ノ草ヲ充ルニハ我前ニ云フ如ク「カレ」官ノ
本草ニ「カレ」スル処ト「カレ」人「カレ」ユ「カレ」ニ「カレ」ノ「カレ」ス処ノ「カレ」草
後テ「カレ」スル処ノ「スツ」ベシ「カレ」ルヲ佳トス

性貨 温燥才二度、深ク三度、近シ其上気気指微
ニシテ質細薄粘滑濃厚ヲ不利竅透シテ適熟
セシム

主治 胎肺ヲ淨除シ久効喘急脇痛自餘胸中ノ諸病
ニ甚良ナリ○又此煎汁日々内服シ或ハ膏、和シ外
塗片ハ疥癬ヲ治ス○新本草ノ説ニ此草ヲ搗テ外貼
シ或ハ食物飲料ニ和シ用ル片ハ諸毒虫及蛇咬ニ甚
々良ナリト○此液汁飲食料ニ和シ用ルトキハ發汗ス就
中テリアカレヲ加ル片ハ疫熱腫及カラホーレシラ即時ニ介

利ス宜ク具初ニ當テ内服外貼シ其分貼スル処ノモノ
ヲハ屢ニ更始スヘシ○凡テ諸傳深疫熱ヲ治スルニ甚
良ナリ

スツベノ主治 子ヨスコリテス及テオフラスナユ云故歟ノ
功アリテ^{スコン}一ニノ刺刺ナシト又ガレユスノアシチトダ^ル中ニ
云ク辛熱ニメ甚タスベケレイニ似タリ且ツ酒保貯スルニ甚
良ナリト是別種ノスツベナリ

所考 カロリユスクルシウス^ラ異艸譜ニ載スル処ノ如ク此草
種類最衆シ向者クルシウス^ラ記スル処ノモノハ毎ニ具ス力

ロオセノ本性ノモト又其新ニ見和スル処ノモノアルカ為ニ
今我々後ニ其况長ナルカ為ニ一ニノ標的ヲ以テ其分別ヲ
為シ以テ其名ヲ論セン

大スパンセスカビオセ 是クルシウスヨオ一ニ記スル処ニメスカビオサマヨル
トスバニカシヘフリマト名ルモノナリ其花白シ花謝ノ后其莢
ノ正中ニ花ヲ止ム一黒小曰生アリテ四五或六禪アリ續テ其
莢^赤廣大ヲナス是其米成ノ子ノ熟スルニ後テ其莢乃チ開
彼スルナリ「ドビ子ウタ」之ヲ異種ノスカビオセト名ク
小スパンセスカビオセ 是ドビ子ウタ「オラ異種ノスカビオセ」ニ充ル

モノニメクルシウスヨオモ其出ニ後テ記スル所ナリ

オ一ラ東國之瀾葉紫花^赤ノスカビオセト云其莖空注キ結莖

アリテ葉ハ切断セテ瓦尚鋸齒アリテ「子イテレン」ヨリ大ニ
其味辛苦花ハ尋常「スカビオセ」ノ如クナレ瓦赤色ヲ帯ヒ且ツ

芳香ナシ

オニラ東國之瀾葉紫花ノスカビオセト云此草餘種ニ似レ瓦

大ニメ其葉大ニ且黒ク花黒紫色ナリ

オ三ラ山スカビオセ ト云五葉或六葉ニテ地ニ依ルニ肥厚ニ

メ自餘ハ尋常「スカビオセ」似タレ瓦殆ント大ニノ輝光アリ

味ハ粘氣アリテ脂氣多ク后サク辛味アリ其低臥スル処
ノ間ヨリ疎葉ノ一茎ヲ出シ其上ニ五瓣深紫ノ花ヲ開テ密
着儼附ス其内ニ黒キ濇毛及莖アリテ之ニ望ムハ甚美ナリ
根ハ長ク黒クメ太ク白髣濁アリ

オ四ヲ印度スカヒオセト云此「イタリヤ」ヨリ移来テ印度スカヒオセ
ト名ルモノ也其花ソ美テトロスケニスアリテ聚着每花五瓣シ
其外面ニアルモノハ中央ニアルモノヨリ大ニ色ハ暗赤ニシテ甚美ニ
后サク紫色ヲ帯ブ葉ハ深緑色ニシテ輝アリ濶ク切斷スル
ト尋常スカヒオセノ如シ又將トシテ赤色ニシテ輝ナキモノアリ

オ五ヲ無輝黄色花ノスカヒオセ其葉切斷甚深ク其莖節節
アリテ具每節ヨリ兩葉相對生シ其^色緑ニシテ后サク灰色ヲ帯
味苦シ其莖ノ上面ニ扁球ヲ出シ白或黄ニシテ輝ナキ五瓣
ノ花ヲ開ク其大ヤ自餘ノモノヨリハ下ルテ三倍或ハ其ノ其
内面ニアルモノアリ子ハ尋常ノモノヨリ小ナリ根ハ終老枯レ
ズ根ラズハ則此諸種スカヒオセノ種類トナスヘシ

オ六ヲ白花ノスカヒオセト云此草和蘭園中ニ甚多クメ前ノ
諸品ニ大ニ似タレ其花白シ

オ七ヲ重球ノ白スカヒオセト云濶葉硬莖花球雪白多ク草

球ナレバ又低ニ重^二重^一或其餘モ相重疊スルモノアリ

オハ^レ東邦之白花ナル大スカビオセト云其葉濶ク高ク四尺許花ハ

他種ヨリ大ニ其色甚雪白ナリ其中ニ白甚アリテ其莖頭緑

ナリ花謝ノ后少ク赤ラ帯ル球アリテ其球鱗皮アリテ

其内ニ結フ其子熟スレハ其色灰色或微赤ナリ

オ九^ラ夏生ノスカビオセト云此草前ノ東邦スカビオセニ甚似タ

レ其花緑ニ赤鱗皮球アリ價テ纖長ニシテ白キ子ヲ結フ

○マツナヨリユスノスカビオセハ白花ニシテ大スカビオセノ一種ナリ

オ十^ヲ有実ノスカビオセト云此草其葉ノ多クマツナヨリユスノ記

スル処ニ異ナラザレバ其花紫ニシテ緑ラ帯ヒ一球ニ重積ス其ハ

葉ノ^{ワキ}周端ヨリメ又許多ノ長キ小茎ヲ出シ此ヨリメ又別ニ紫緑

ノ小花ヲ開キ尚別ニ又小茎ヲ萌出スレバ其花ハ尚小ニシテ全

輪ナラス根ハ灰色ニシテ鬚多クケレバ毎冬消散ス

オ十^ヲ低卧スル山スカビオセト云此草長ク地上ニ廣蔓シ根黒

クメ長ク其細鬚ヲ以テ又地上ニ附着シ其ヨリメ又數多クノ

枝ヲ萌出シ低卧スルニ似テ又後テ其鬚

ヲ以テ地上ニ固着ス許多ノ葉アリテ稠密肥厚滑ニシテ其

色深緑ニシテコレイヘシニ似タリ葉頭尖ラズメノハトシノ形ノ

如シ其香ハガラスシ如シメ芳ナラス其茎長ク其味辛苦具
葉ヨリノ又一スパン子レノ圓差ヲ萌出シ每茎扁球アリテ紫
花ヲ具内ニ止ム其花時ニ或ハ綠色トルモノアリヲテシニ之
スカビオサモシメナミノルレペンスト云

オナハ 最小ノスカビオセト云 是ゴロビュラリアト名テアング
イルラレノ所謂アヘイルランテシメ一小草ナリ其葉ナデヒ

コシ似花ハ多分緑ニ又時ニ甚雪白ナルモノアリテ圓球ニ
相固附スルカ為ニ之ヲフランセマギューリテスト云 東邦ニテ婦
人之ヲブラウビュグアルトサト云 昂知花ノブラウエマーグテリ

イヘシノ義ナルヲ以テ此名ヲ得タリ

ローベル又スカビオセノ數種ヲ記セリ其記スル処以前ノ諸品
異ナラザレバ疑ラク品前物ナラシカ

Aヲハスカビオセト云 是クルシウスハ「ゲヨスコリテス」ノ「ヘリストレ
ラシ」名「コリユバリア」ニ充タルモノナリ

乃ハ大ニ尋常「スカビオセ」ナリ

Cハ羊「スカビオセ」是「ド」子ウスレノ記セル中品「スカビオセ」ナリ
乃ハ畠「スカビオセ」是「美」ナル淺紫花ノ「スカビオセ」ナリ

Eハ最大ノ山「カビオセ」是「ラ」テシ「所謂」スカビオサアルビナマク

シマナリ

Fハ赤色ノ果知カビオセ是即クルシウスノ記セル処ナリ

Gハ熱地産ノ山カビオセ是即モンタナスカビオサカダニナリ

Hハ有実ノスカビオセ是我記セル処ニメスカビオサプロリヘラナリ

Iハ白花ノ大ナルイスポヤスカビオセナリ

Kハ異知カビオセニメ其花子ハスカビオセ具ノ葉ノ形状

ハ赤ハレリアナニ似タレモノナリ

Lハ最小ノ山カビオセ是ハベナ一名アヤセルコロイトニ

似テ其花鱗皮球中ニアリテ赤黒ニ輝キモノナリ

Jハ夏生ノスカビオセニメ其花緑ニ尋常ノモノ、如ク其葉

長ク綠色ニメ高サ一掌半許ニメ星輝ノ如ク照リ尚又斯

カカビオセノ諸種次ニ論説ス

オ十二瀟葉スカビオセ 此一種ハポーゴドイツニ生スルモノニシテ

其葉大抵根ヨリ生シ不截不廣キル氏具廣キニ此スハ又

甚長ク肥厚ニメ時トメ又黒点ヲ見ハスコトアリ花ハ緑ヲ

少ク赤色ヲ帯ブ

オ十三ラ小樹様ノスカビオセト云是加クナルピユスカ記セル処ニメ

高息スルコト殆ント小樹ノ如キモノナリ

オ十四ヲ「フランセスカビオセ」ト云其葉長クメ黒色ヲ帯ヒ細クシ
滑ナリ其味ハ「アルケンギ」ノ將ニ熟セントスル前ノ味ノ如シ

オ十五 ヲ「デユリン」デ「國産」ノ黄花「スカビオセ」ト云

○此草尚別ニ種類数多アリトイヘモ無用ニ属スル者爲
メニ之ヲ論セス○又高學子師「ハビユスコロンナ」ノ考ニ此「スカビ
オセ」ヲ以テ「デヨスコリテス」ノ「イテユマ」ナルヘシトス「クルシウ」
ハ又異論ナシ「ロ」ルハ前ノ説ク如ク此草ヲ「デヨスコリテス」
ノ「ヘリス」テ「ラン」一名「コリユ」バ「リア」ニ充テリ

時度 此草冬月消散ス宜ク毎歲新種スベシ且此草

地ニ生スルモノハ繁華早ク寒ニ土ニ殖スルモノハ甚遅ク
且毎ニ華ク「ナシ」若シレ華クモ亦具子熟スル「ナシ」若
其生殖スル處ノ土地ニ從テ區別ヲ爲モノナレハ其開花結
子一時ニ概スル「アタハス」

「スカビオセ」之主治 人ハ多ク尋常「スカビオセ」ヲ用ユレ尚

宜ク用ニ供セントセハ其小「トル」モノヲ取ルヘシ當時諸本草家
ノ説ニ「スカビオセ」ハ其功能諸種同一般ナリトスト「ル」
尚ラ著明セン「ド」子「ウ」記ス處ノオ三種中ノ其オ一種ヲ
取テ別種ヨリ稱スルハ是猶不審ノ説ニ且未穩ナラス

此草ノ花砂糖ヲ和シゴンセルフシテ造リ日々月ニ片ハ胸
胸ノ諸患ニ甚良ナリ○此草ヲ煮或清シタル処ノ灰汁
頭上及髪ニ塗ルヤハ其虫ヲ殺シ且頭瘡ヲ治ス就中
白瘡ニ尤良ナリ○のしんじ云小スカビオセハモントペリイは
ノ菜局ミテ多ク大スカビオセノ 缺之ニ使用ス是翅ニ血中ノ汚
液ヲ駆除シ且此灰汁ヲ以テ胸中ノ疹様液ヲ和スルノニ
ナフス尚患性頑癬及皮膚ノ頑硬ヲ拒ク又酢ヲ和シゲレ
イセコムシテ煮用ハ白瘡ウナルトヒル及イエウクセル及
皮膚ノ頑癬ヲ治ス○餘種ヨリハ熱疫流行ノ時ニ当ハ就中尋常

スカビオセヲ取リ其汁廿四支或三十二支ニメテリダード或
ハ子チヤテリアカレ五カヲ和シ服メ他發汗スルハ傳染疫
熱ヲ駆逐ス且其劑飲食料中ニ毒虫アリテ其毒身中
ニアルニ甚良ナリ○カユリンゲラント及自餘^嚴突^ハ此草
ヲ創製シ愈スニ大ニ使用ス何者此汁ヲ温メ其毒ニ滴ス
ルハ其刺傷切斷スル所ノ処曾テ疼痛膿腫スル等
ナシ○又熱地ニテハ其工學醫ノ發明ニ由テ此草ノエスタ
ラクトラ作り以テ肺ノ諸患吐痰及勞瘵ノ初發ニ大ニ
稱ス○ホーゴドイツニテハ此諸劑ヲ用ルニセンタリユムヲ以テ

煮服ス即此スカビオセシ葉ノカントリイシ葉ニ似タルヲ撰テ之
ヲ用ユ此^草ホーゴドイツニ多シ○此草又蛇咬ニ甚良ナリ
又此葉ト根トヲ取リサク山羊酪清ヲ和シ日々一匙ヲ服ス
ハ身中ノ疥癬ヲ治ス○此草、砂糖汁ヲ和シ舍利別
ヲ作り菜局ニテ用ユ別ケテフランシスノ菜局ニテ大ニ使用ス
○此草七月季、根ト葉トヲ取リヨク搗テ露水ヲ滴ス
ル時、諸腫瘍及アボステミシニ大切アリ又朝夕口四匙
ヲ服スルキハ呼吸短迫ヲ治シ又傳染疫熱及解毒ニ大
切アリ又咳嗽及身體ノ疥癬ヲ治ス○右ノ露水又眼目

ノ諸患及痔患性頑硬腫ヲ治スルヲ甚速ナリ

スウィーベ之主治 ドッ子ウシ此スウィーベノ一テ明徴ヲ載ス

今我其功能ヲ論スベケレバ諸本草家不明ニシ之ヲ
真ノスウィーベニ充ルヲ以テ敢テ多言セス諸本草家ハ「
子ウシノアヘイルラニタ」ヲ以テ古ノスウィーベナリトス此事我次
ノアヘイルラニテノオ五章、論セン高學子カロリユスクルニウシ
モ其出異草譜オ四卷四章、スウィーベ及自餘許多ノ
種類ヲ載セタリ

才四章 「トイヘルスベート」一名「ユツシカ」

形状

此草亦スカビオセノ一種ニ其葉長潤エト根葉ノ

ウエギブレイニ似タレテ羽具同違刻アルミニメ断テ脉理

ナシ葉一尺或一尺半許大抵三枝ヲ分テ其枝梢ニ右一珠ア

リ其珠ヨリメ白或紫綠花ヲ開ク根ハ太ク短クメ噬断スル

カ如ク其両脇ニ細鬚アリテ地中ニ所固ス

出處

此草森林野傍不耕ノ地或曠原或小草多ク

高燥ノ岳上ニ生ス

時度

多分七八月華ク之ヲ乾シ用ニ供セントセハ宜ク此時

摘採スヘキナリ

名義

和蘭ニテ衆人之ヲ「トイヘルスベート」云クテ「シモル

シユスゲアブレ」ト云「インデルス」ニテ「ウエルレスベツト」ト云是其根ノ

噬断スルカ如キカ為ナリ「ホーゴドイツ」ニテ「ウツヘルスアビックス」ト云

「フランス」モツダユヂヤブレ」ト云「ロニクシウス」ハ「シユクシサ」ト云「一」是

皆其根ノ噬断スルカ如キヲ以テ「ユル」ノミ又衆人此草ヲ「コルシ

ユスチヤボレ」ト名ルモノハ是或人ノ言ニ「鬼ノ人此草ヲ用ル寸ハ甚

功績アルヲ知リ之ヲ妬テ此根ヲ噬断スト云フ妄説アルヲ以テ

斯ク名クルノミ

性質

味苦ク温燥オニ度ニシテ甚高シ

主治

此草口中咽喉ノ巴且杏核ヲ治スルニ大功アリ其ヲシテ

膿熟ニ至ラシメズ○又咽喉ニ粘液附着スルヲ淨除融和シ

且其瘍腫ヲ治スルノ甚速ナリ宜具口中ニ含保スヘシ之ニ蜜

玫瑰花少許ヲ加ヘ尤良ナリ○又^此毒虫咬傷ニ用テ其毒ヲ

ヲ解シ及諸疫熱傳染病ヲ治スルノ効カビオセ、勝レリ

○此草ヲ搗キ^キ熱腫及カラボレシニ貼スレハ即チ治ス○或説

ニ此草ノ煎汁ヲ服スレハ子宮ノ諸痛ヲ和シ且其風氣

ヲ驅ルト

附考

此草大抵圓莖ニメ高クニ尺或ハ三尺許ノ葉長濶

ニテ周圍微刻スルモノアリ又之ナキモノモアリ花ハ紫色或ハ

白色相混スルモノアリテロントホツク花ノ如シ花謝スレハ其子

從テ飛散ス根ハ大抵深黒ニメ堅ク太クメ短シ其両腋ニ許

多ク鬚アリテ掛着シ具中心ハ乃チ噬断ス此草効カビオセ

或ハカテルヘイルロシト分別シ難キカ為ニ八月開花ノ時ニツヨク

乃ヨク見知スベキナリ花亦大ニ効カビオセ、似タレ之ニ望メハ具

色濁シリ

化生ノイヘルスベシ

テ人此草ノ美白葉ナルモノヲ見得ルコト

アリ又和蘭ニテモ深緑色ノ花アルモノヲ見ル

名原

此草ヲドイツヘルスベータート名ルモノハ是具根ノ噬断スルカ

加キ以テ則胆ルカ胆ハ則ウエーギブレーモ亦其根噬断スルカ

アリナレハ亦宜ク此名ヲ冒ラシヌ胆ラシカローベル云此草大熱

辛釋ナルヲ以テ鼠蹊ノ腫瘍及ウヘスチレンターレアホステューン

アンテラセス一名ローレンツノ點ノ穿透閉結スルニ大功アルカ為ニ

此名ヲ附セリト○イタリヤニテハ「モルソデル」ガヤホロト名ケ葉局

ニハ「ブラモルカ」ト云

主治

此草根ヲ酒ニ煮服スレハ諸病ニ功アルヲカカドカセノ

如シ中ニモ得深病ノ功アリ○此草ノ最モ功アラシクテ欲セ

ハ宜ク酒或水ニ煮テ服スヘシ之ヲ温服スレハ打撲或高

ヨリ墜下血ノ體中ニ凝結スルヲ治ス○此草生根ト花トヲ搗

キ用レハ疫熱ヲ治シ又外點ノアホステューンヲメ熟成セシ

ル○此草ノ液汁ヲ含漱劑トナシ喉風及咽ノ諸患ニ用ユ○

此葉根ト瓦ニ酒ニ煮テ具酒ヲ服スレハ深傳病ニ功アリ

又子宮衝逆ヲ治ス○根ヲ木トナシ服スレハ虫蛇ヲ殺ス○此露

水前ノ諸病ニ良ニ且高ヨリ墜下モノヲ治ス是具凝力カ為

ナリ宜ク三十二葉ヲ服スルヲ日ニ二次スヘシ又毎晨十六葉ヲ

服スレハ疲加テ拒ク○此根打搦スル処ニ外傳スレハ其血ノ脉
管ニ凝血スルモノヲ治ス○此露水及液汁ヲ皮膚ニ外傳スレハ
麻疹ノ疼痛スルモノ及其斑点ヲ治ス之ニカレイキス或ハコロヘ
アトセラカレハ尤佳ナリ

キツキアリ
泥胡菜

オ五章「スワルテヤセア」一名ワールヒロシ「アヘイル

ラシテ

品類 此草ノスワルテヤセア一名ワールヒロシモ志異ク「カニカ」

ノ種類ニ次列スヘシ外ニ又一種無瓣花ノモノアリ次章ニ論
セン

形状 此草葉長濶ノ両端切斷深クザシク毛アリ莖ハ許
多ノ葉アリテ附離ス圓ク堅クノ粗糲ナリ其枝ノ上面ニ各一球
アリ其球ノ外面ハ細鱗状皮之ヲ覆フテ一ニコロシブルメシ
如シ此ヨリメ花ノ代リニ許多ノ細莖相密着シ生ス其色紫

シ赤ラ帯ヲ又稀ニ白色ナルモノアリ根ハ不様ニノ堅ク屈曲
ノ鬚アリ之ニ掛ル

出處 不耕ノ曠野及茂草ノ地ニ生シ又多ク樹籬野園ニ生
又此草無用ニ田野ニ残在スレハ宜ク雜草ノ部ニ次列スヘシ
何トヤレハ牛馬及自餘ノ諸獸未ダ嘗テ之ヲ食ハス又之ヲ落草
中ニ交ル寸ハ敢テ具ヲ落草ヲ食フコトナシ

時辰 此草六七月華ク

名義 新本草家之ヲスワルテヤセアト云フラテンシヤセアニガラト
云フ其スワルテヤセアト異名スル所以ノモノハ是テリイヘルヤセアヘ

ヒヲレシ一名 ^{ヤセア} ベンセイシ此名アルカ以テ具ハ別テ為シカ為メナリ
又多分之二舊名ヲ附メテリシル也ト云是 ^{或ハ} スツーベニ一種ニ充ル
テイリ宜クシカゴセシ内ニ算入スヘシ又之ヲアヘイルラシテスト名
クルユエシハ此草ノ花前ニ之如ク許多ノ莖ノミ相附着メ而メ具
ナキカ為ニ名ニ外ナラス何者キリシヤシニ此草ヲアヘイルラシテス
ト云是具上ニ花辨ナキヲアヘイルラシテスト云カ為メナリ
性質 此草亦温燥トシテドイヘルスベトテ一名シユクシサシ如ク甚
シカラス

主治 此草咽喉ノ瘡瘍及巴且否核及喉風ヲ治スルニ大功アリ

又シユクシサ一名トイヘルスベリテ此スレハ其功ヤク有レリ

所考

アングユイルラ、又アヘイルラテスレノ一種ヲ載ス云クイタリヤノ

諸山及具スラホイシニ生スボゴ子ハ之ヲボトナリヤ一名ゴロユバ

リヤト名クト其由具タ多キカ為ニ我之ヲスカビセノ所考、載

セテアヘイルラテスレニ充ツ是凡リ諸草ノ花瓣ナキモノハ右件ノ

名ヲ所スル理アルカ為メナリ

ヤセア之種類

高學士カコリスクルシウス、具異草譜才四卷

二三章ニヤセアノ種類ヲ挙テスカビセノ種類トス今之ヲ詳

載セント欲スレハ其冗煩ナルカ為メ、却々具名ヲ論説ス

オ一ヲヤセアスクワマトハロテプリマモンタナト云鱗皮多キ球アル才

一種ノヤセアレシ義ナリ其花五分シ其色紫白具中央ヨリ微細

刺ヲ出シテ粉末ヲ展スルカ如シ ○才二種ヲヤセアスクワマト

カロテセキエンダモンタナト云是才一種ノモノニ似タレハ稍小ニシテ其花

輝光ナシ ○才三種ヲヤセアスクワマトカロテテリアセシテカレ

ト云是カンダヤシ島ニ生シテスカビセノ一種ニ充タルモノナリ花紫

色或是タ白キモノアリ其中心ニ黄針アリ ○才四種ヲ刺

衝多キ球アル山ヤセアト云ヲテシニヤセアモンタナトルロリカロタアラ

タルト云具景色甚美ニテ高息ス具球ヨリメ紫花ヲ出ス

之花或ハ其餘モアリ数多ノ鱗皮密着シテ其上面ヲ圍繞シ
 以テ球中ニ圍ム ○オ五ヲ刺球依生ノ山ヤセアト云フテシニ之ヲ
 ヤイアモシタナヒルロカピタヒユミリスルハ云々此草他種ニ似且刺球
 アリテ甚低小ナリ ○オ六ヲ毛球ノ山ヤセアト云フテシニヤセアモ
 タナヒルトカピテト云フ葉ハ尋常ヤセアノ如ク其莖紫ナリ其球ハ
 鱗皮アリテ毛多ク其色黒シ ○オ七ヲ刺球ノ山ヤセアト云フ
 其葉軟ニ其球刺棘多クケレ厄カルキトラハナルモノヨリハ其棘少シ
 此草東邦ニ生スラテシニヤセアモシタナエシナカピテト云フアリニスノ
 ヒアスキリスニオ五似タリ ○オ八ヲ黄花ヤセアト云フ其球粗糲

ニノ刺多シ昔ヨリ黄花ヲ出スルヲアットラクテイリスニ似タリ其花ノ
 飛散スル初メ當テ其中心ヨリ灰色ノ脂ヲ出シ花ト混交スルコ
 ノニノ具禰禰ニ入ルカ如ク又或ハヌラガカンタト云フ是ハ以テヤ
 ニテヌラガカンタト云フ是ハ中ノ子ウズ載スル処ノカールレン
 内ニ次列ス ○オ九ヲハレンセント云フ紫花ヤセアト云フ其葉白クソ
 山リス一名ウナルテエンデライト云フ似タリ其枝柔軟ニ其梢ニ鱗
 皮ナキ球アリ此ヨリ紫色ノ花ヲ出ス根ハ甚太ク長クノ粘氣アリ
 ラテシニヤセアモシタナヒルロカピタヒユミリスルハ云々此草他種ニ似且刺球
 ニノ尋常アルソラト云フ又或人ノ考ニ謾ニ之ヲ充テホテリウム

カニトス

ローベシ 許多ノ諸草ニヤセアノ名ヲ冒ラシム^{カニトス}カニトスニ

ニ至ルカ如シ是或人此草ヲヤセアモシタト名ルカ為ナリ

○ローベシノ名ル処ノヤセアマヨルハ是ド子ウズノフロスシ

アノイデスナリ ○セルラキユラハンマツテヨリユスニ点一二ヤセア

ニ似タルモノヲ載スレ^{カニトス}具鱗状皮球アリトノニ載セテ

是葉ヲ記セス ○モントヘルリイルスノ白ヤセアハ是ローベシ

オセイモイテスノ草ニ載ス

ローベル又此草ノ前品ニ稍相似タルモノヲ録ス

オ一ヲ黄色ノ大ヤセアト云ラテシニヤセアマヨルリユテアト云

○オニヲ無茎ノ低臥ヤセアト云ラテシニヤセアロユミラセルヘ

シニアサウリスヘシストレシア子オアトアルボト云 ○オ

ニヲ刺球ヤセアシラテシニヤセアカロユキリススロノシスト云

○オ四ヲシンギラドクノ山ヤセアシラテシニヤセアモシタナマル

ボ子シスト云 ○オ五ヲオレイフボム草ノ小灰色ヤセア

トシ是ヲタルミカレノ一種ナリラテシニ之ヲロユセルラインカナ

ヤセアアルテラホリオオレクスト云^種此草種類尚衆多ヤリトイ

其記載ニ便ナルカ為ニ^イイルラテス^イ奈ニ譲ル

主治 此草水煎之口内喉咽ヲ洗フ并ハ其諸瘍ノ新
ルモノハ之ヲ驅散シ其古キモノハ之ヲ破潰ス

夕ニガクキ

品類

才六章 アヘイルラントスノ別種

爰ニアヘイルラントスノ別種ニ唯其莖ノミアリテ具花辨ナキ

ニ數種アリ今我之ヲ分ツテ四種トナス又一種スハクリテス

ナルモノアリ

形状 才一種ナルモノハ其根ヨリ數多ノ有枝莖ヲ出シ其色

綠ニメ少ク稜アリ葉ハ根ヨリ生メ枝ヲ繞リ鐵長ニメ周

圍深ク切斷シ綠色ニメ滑ニ少ク輝光アリ其花ヲ出ス

処ノ球及具鱗状皮モスワルテヤセアシニ似タ元之ニ觸ルハ

稍粗ニメ堅シ花モ赤スワルテヤセアシノ如ク美莖ニメ莖

ナニハハ澤潤ニテ上頭ニ鬚アリ具大サハコトシブルメン
ノ如クナレ凡大ニ根ハ鬚多シ

多シ
才二種ノモノハ前品ニ甚似タレ凡具莖短ク具球小ニ興
鱗粗ニ刺少シ具葉ハ暗緑ニ具花紫ナリ而シテ長莖
多シ

才三種ノモノハ葉白ク深ク切斷シ且刺多シ花ハ前品ノ
如シ

才四種ノモノハ其葉切斷深ク其小ニ才三種ノ如ク其球
ハ鱗状皮相綴着シ其色輝白ニ銀色ノ硝ヲ見ルカ

如シ花点紫色ニ其形他種ニ齊シ

才五種ノモノハ此種類ニ列スルハ是疑クハ一理アルナリ

シカ彼ノキシミリアン帝ノ園スル処ノ古書ニ「スハクリチス」
ノ名ヲ以テ此草ニ附續ス其球ハ「イルラテ」ノ如クナレトモ
唯莖ヲ圖スルヲナシ古書ニ「スハクリチス」ノ名ヲ以テ記スルモ
ノハ唯「イルラテ」ノ是具實ノ球ノ如キカ為ナラシカ也凡
果ノ是ナルヤ否ヤ未詳ナラス

出處 此草原野ニ自生シ又長ク道路ニ植シ或ハ葡

萄樹邊及不耕ノ地ニ生ス多ク歐羅巴ノ熱地ニ生ス

時辰

六月園中ニ華ヲ和蘭ニテハ其ヨリ少ク遅シ

名義

凡テ此草ヲアヘイルランテスト云又無瓣花ト名セモノハ

是翅ニ葉ノミアリテ花瓣ナキカ為ナリ又今我見知スレ

愛ニ載セカル古名ニ二種アリ乃チ諸本草家及高學

ノ人モ亦大ニ感フテカビオセ及スツトベノ一種トナシ其中ニ

算入スレバ我カスツトベノ中ニ六配列スヘカラサレヲ徴セン

何以之ヲ言フナレハ前ニ云フ如クカビオセハ「スツトベ」ト大ニ

異ニ且我カヘイルランテストモ亦甚異ナリ此草ハ古ノスツ

トベノ如ク其葉間ニ刺衝アルヲナシ以テ知ルベキノコ

才一種ヲ我從之ヲ才一種ノカヘイルランテスト云ヲテシミアヘ

イルランテスプリミユト云

才二種ヲ才二カヘイルランテスト云又刺球ノカヘイルランテス

トモ云フ

才三種ヲ白葉深断ノカヘイルランテスト云フ

才四種ヲヲテシミアヘイルランテスクワルキユト云銀球ノカヘ

イルランテスノ義ナリ

性質主治

此草和蘭ニテハ今ニ到ルマテ菜用食料

用テルカ為ニ亦々能ク其功效ヲ知ル人ナシ

附考 **ドゾ子ウス** 今斯記スル処ノアヘイルラテスノ諸種ハ諸本草家具此少ノ證理ヲ取リ或ハ其舊習ニ因テ之ヲカッパベト名ク是以此今我友ニ高學士カロリユスクルヒウス記スル処ノカッパベノ種類ヲ論セ

オ一種 カマシカ之ストツトベ **此草** 大ヤセアヒ似テ其葉地上ニ垂臥シヤセア及カカヒオセ葉ヨリ濶ク其形大ニシコレイニ近シ軟シメ濶毛多ク其色白シ一根數莖ヲ出シ高カ一尺半許或之ニ過ルモノアリ許多ノ股支ヲ分チ小葉懸ル其葉少ク刻アリテ葉頭尖リ而ノ刺多シ其枝稍

コクニ株ノ莖花ヲ開キ鱗状球ノ中ニ保持ス花后毛子ヲ鋸フコト大センタリユレノ如クナヒ稍小ナリ根ハ長クメ白ク或ハ其太サ一指許ナルモノアリ終冬止留ス或ハ多年經過スルモノアリカラマンカニシテハ夏月華キ和蘭ニテハ大抵植テ后次年華クカラマンカニシテカッパベト名クルモノハ是具葉頭ノサク鋭利ナルガ為ナリ是以此カッパベト名クルモノハ是具葉カラマンカアリマシト云カラマンカノ民人ハ之ヲカベキエラト云小球ニ義ナリ具エ之ヲ以テ箒トシテ洒掃ノ用ニ供スルコト猶和蘭ニベルヒレイセン或ヘイデヲ用ルカ如シ

才二種ノカラマシカ「スツ」ベハ葉軟シモ多ク其切斷シ区
スルヲ引ケツテノ如シ其葉柔軟ナ地ニ依臥ス其具枝梢
ニ開キ前ヨリ大ニ具瓣最白ニシテ花ノ如ク中心紫
シ其兩間^深黄針アリ子ハ前ヨリ如ク或ハコロレ^花ノ子
ノ如シ根ハ太サ一指許白ク冬ニ至テ乃枯ルヲテ^{スツ}ベ
カラマシカセキニタ^ト云カラマシカ^ハテハコロレ^花ブル^メシ^ノ一種
ニ充ツ

才三種ノカラマシカ「スツ」ベハ許多ノ葉アリテ具根ニ附續シ
地ニ蔓布ス灰色ニ長ク深ク切斷スルヲカ^カビ^オセ^ノ種類

ノ如シ是以カラマシカニテハ之ヲカ^カビ^オセ^ノ一種ニ充ツ茎ノ向
サ大抵一尺半許^許モ^ノ脇^枝ヲ^布カ^ス
ハ茎ニ附離シ深ク切斷スレバ他種ヨリハ小ニ短ク或ハ具葉頭
鈍軟ナリ具茎ノ梢ニ銀白色ノ鱗皮球アリテ互ニ依着シ花
是ヨリ開ク其形コロレシブル^メニ似タレ其葉色ニ輝^ク子ハ
モアリテ之ヲ西液ニヤセア^レ及コロレ^花ブル^メシ^ノ諸種ノ如クナレバ小
シモ黒ク其先キ尖ル根ハ特立ス又サク鬚^頭アルモノアレバ甚
稀ナリ之ヲ^{スツ}ベ^カラ^マシ^カテ^ルチ^アト^云又^{スツ}ベ^ニ充ツ
ル^ハ其^葉頭^ノサク^尖ル^カ為^{ナリ}

「オ」四種ヲ「カ」フランス及東邦カ「ツ」べ「ン」少ク高生ス「ト」云此草オ
三種ノモノト是タ各別シ唯シ唯具球ノ美輝銀光ナキノ
或人謾考ニ之ヲ小コーレンブルトメントナシ「カ」フランス「ツ」べ
ガ「リ」カ或ハ「ア」ウス「テ」リアカエラチナルト云
オ五種ヲ東邦ス「ツ」べノ高生セ「ル」ト云此草東邦ニ生シ自餘
ノ諸品ヨリハ甚小ニ最細枝アリテ小コーレンブルトメンニ異ナラス
「カ」テシ「カ」之ヲ「ス」ツ「ベ」アウス「テ」リアヒユミリス「ト」云
「カ」ルシウス「ノ」記スル処ノ諸種「ド」ツ子ウス「モ」云之ヲ載セ其他「ロ」
「ベ」ル「ノ」録スル処モ亦漫一同齊ナリ即チ

オ一種ヲ「カ」ラマシカ「レ」大「ス」ツ「ベ」ト云○オ二種ヲ「カ」ラマシカ「レ」小
「ス」ツ「ベ」ト云○オ三種ヲ「ア」タルミ「ラ」葉ノ灰色カ「ツ」べ「ト」云「カ」テシ
「ス」ツ「ベ」インカ「ナ」アル「テ」ラシ「ア」ヤセアカ「フ」チユリス或ハ「ア」ロシ「ア」タルミ「カ」
ヒ「ユ」ルガリス「ヘ」ルバリオリユ「ト」云○オ四種ヲ「ア」ルドロ「ハ」レチユス「レ」青
色ニメ銀色ヲ帯フル「ス」ツ「ベ」ト云「カ」テシ「カ」ス「ツ」べアルゲンチ「ア」イン
カ「ナ」アルドロ「ア」レチ「ト」云凡シ此諸品「カ」ルシウス「ノ」ス「ツ」べ「ト」殆ント
区「分」ナシ若夫之アルモノ僅ニ「タ」ルノミ
「ス」ツ「ベ」之主治 「ド」ツ子ウス「曰」諸崩流ヲ止留スガ「レ」ニユス「云」ク
刺戟セスト又曰此草水煎シ服ス「ハ」赤利ヲ治シ身中ニ滴シテ

其膿ヲ排スト○此ノ葉眼目ノ打撃ニ由テ出血スルヲ治ス○
云此草ノ葉子ニ收斂ノ功アリ其燥才ニ度ニ至ル是
天ヲ愈スト○又葉子ニ水煎シ眼ノ腸痛ヲ治シ耳中
膿血アルニ良ナリ且眼目ニ傳貼ノ打撃ニ由テ出血スルヲ治ス
○此草我今スツトベノ名ヲ附スルニ猶諸品スツトベヲ以テ異
名スルモノヨリ貴重セカレリ

スハリチス之主治 往古ノ「スハリチス」ト云フ子ウシ官本ノ古書
見ニ存ノモノハ其圖「ツナヨリユ」ト云フ「ゴロ」ラリヤ「及」セトラチユラ
ノ一種ナリ又或ハ「カンタリユ」ト云フ一種ニ充ルモノアリ○此ノ如ク

分リナラズメ今ニ列ルマテ其官本ノ圖ト符合スル一草ヲ
從發明スルナシ是レ以テ今何レノ草ノ古昔ノ「スハリチス」的
充スヘキヲ「熊標」校セシガ為メニ此ニ記スルニ

オセニ草 スコルゲユム 一名 ワーテルローク

形状 此草許多ノ方茎アリテ其結節ノ中ニ分布ス高生セス

地ニ延躑シ其結節ヨリノ兩葉相對生ス圓長ニカメデレイスヨ

リ大ニ周圍ニ鋸齒アリ葉ニ毛多ク灰色ニ其具ハ

円ク似タリ其葉間ノ芽ヨリメ圓花ヲ出シ何ヘ子トシ

ヨリハニ其枝ニ開ク根ハ積多ク地中ニ蔓延ス

出處 此草沼澤及坑ノ水アル處ニ生ス之ヲ園中ニ移シ種ト

好テ其陰湿ノ處ニ生ス

時侯 六七月華ク九月摘採シ月ニ供ス冬月消散ス其根

保留スルヲ以テ夏ニ至テ復ヒ萌芽ス

名義 此草ギリシヤニスコルゲオント云フテシニモスコルゲユム

ト云葉局ニハ別名ナシ或ハ之ヲテリクサゴパリュストリス^ルカメデレイス

カメデレイス^ル又バテシゲル一名カメデレイス^ル一種トス或ハヨテリダ

キヨシ^ル云是ヨテリダト云フ初テ此草ヲ見且使用スルカ為ナリ

ホーゴドイツ^ルニマスセルバツテ^ルト云フフランスニスコルゲオント云フイタリヤ

ニカラマシデリナタルストレト云和蘭ニスコルゲユムト云フ

名原 此草ヲギリシヤニスコルゲオント云フハ其葱臭アルカ為ナリ

何者ギリシヤニテハローク^ルヲスコロト^ル一名テイリス^ル云今此草

其山烈ノ具アルカ為メニ名ルノコ

性質

ガレニユス云具質温燥其味苦クサク辛味ヲ帯フト

主治

此草内蔵ヲ浄滌ス且蚤ニ和シ外部ノ古キ瘍瘡ヲ清潔

ニス○尿ヲ利シ経ヲ通シ胸中ノ膿状濃痰ヲ吐下ス○又久効ヲ和

且寒冷^{閉塞}ヲ發スル腺胸痛ニ甚良アリ○又打撲損傷ヲ治ス○此

草ヲ乾シ酒ニ煮用シハ毒蛇咬傷及諸中毒ノ強ト死セト故ニ

ヲ治ス○又アンチドトメ、和シ腺ノ諸毒及傳染病ヲ拒ク○又醋

水ヲ和メ痛風ヲ治ス就中其脚ニ末ニ尤良ナリ

殊用

此葉ヲ一時間生ノ内類ヲ包裹スルハ腐敗スルコトナシ

且ツ臭氣出テズ

附考

此草香味ロククノ如ク其形状廻別ニ其形質ノ相混

交セルカ為メニ好草家ハ之ヲ一箇ノ異草トナセ凡我ハ其製

煉無益ノ冗論ヲ捨テ唯其發生スル処ヲ見テ是具何物ナル

コトヲ詳識セント欲スルニ過ナルニ ○此草方茎ニモアリ

テ長ク地ニ布蔓シ白軟ニメ周圍鋸齒アル葉以テ之ヲ覆

フカ為メニ或人^ハ之ヲバレンゲルニ名カメデレイユノ一種ナリト思

ヘ凡尚^ハ美ニ理アリ存ス凡テ具印孤負シ且其葉ニカメテ

レイスヨリ大ナリ○可ハル又此草ノ一種ヲ著述スレモ其名

セントペルリイルス黄花シテリナス
セントペルリアカスコレヂオイデスフロルビユスリュテイス
リガヌムプラスロイデスフランキシペンニ
オニ種ノスコルヂユスハ之ヲ野生ノカヒ
リハレリウスコレヂユスハスコロドニア
中ニ其レイン川ニアリ其香尋常スコルヂユ
テウノリウムハ香アリアンギユイルラ
ヲ戦ス其言ニ多クアブリユス
或ハカラメンテレノオ一種ノモノ如シ又
多クカシヤキリシヤ及

諸邦ニアリテ其香性凡ニオ一種ニ異ナラ
モノアリト然
レ凡具オニ種ノモノハ是ド
ツ子ウス
テオフ
ヲナス
ノスハセリ
ウス
ト名
クル
モノ
ナリ

名義 此草ハゴドイツニ
テケシコノ
ブラウク
ト云
和蘭

語ニテ或人
之ヲ
ワ
テ
ル
ロ
ク
一
名
カ
マ
デ
レ
ト
云
フ
ラ
ン
ス
ニ
コ
ル
ヂ
オ
ン
レ
カ
マ
ラ
ス
レ
云
イ
ナ
リ
ヤ
シ
カ
ラ
マ
ン
デ
リ
ナ
リ
ユ
ス
ト
云
イ
ス
ハ
ミ
ヤ
レ
カ
マ
デ
レ
オ
ス
ト
云
エ
ン
ゲ
ル
ス
ニ
ワ
ー
テ
ル
ゲ
ル
マ
ン
テ
ル
ト
云

性質 此草種々ノ質種々ノ功アリテ
六種々ノ味ヲナス

何者其味苦ウツクシク酸淡ウツクシクニメ且辛キヲロクシノ如シ此ニ由リテ
温暖シシ淨除シ且尿ヲ利シ経ヲ通ス

主治

此草酒ニ和シ服スハ脾胃腎膀胱老ノ閉塞ヲ開透

ニ是以尿ヲ利シ石ヲ泲シ又寒淋ヲ治シ経ヲ起ス〇是

草アインゲリカ草名ノ功アリ毒ヲ解シ疫ヲ驅ル又煎汁ヲ飲

ム一日ニルハ三日熟ラ治シ脾ノ閉塞ヲ開通シ小水ヲ利ス

〇乾シテ末トシ蜜水ヲ以テ服スルナニ我乃チ赤利ヲ治シ

又胃痛ヲ療ス〇生ニテ搗キ大紙ニ貼スレハ即チ治ス〇

又乾シテ蜜ニ和シ古チ創夷、撒スレハ乃チ治シ且息肉ノ

其処ニ生スルヲ消除ス〇此草生葉ノ液汁ハ多分前症

ニ用テ其功却テ勝レリ是以其液汁ヲ以テ舍利別トナシ諸症

ニ之ヲ用ユ〇イタリヤレニテハ六月ノ初メニ當テ此草ノ雨露水ヲ取

リ前ノ諸症ニ用ユ〇此草傳染疫熱ニ最モ功アリト高學士

アウゲリウスカスレニユスベキユスレ云ヘリ又其言ニトルコニ國中

疫熱大ニ行流ス此之時ニ當テ此草ヲ用テ其學家全キ

コトヲ得タリト是此草ヲ用ルニ殊功ハナケレ唯日ニ之ヲ

用テ其全象ノミ疫熱ヲ免ル是以此云爾ノミ

修撰

此草カシヤ島ニ生スルモノヲ上品トスイタリヤレテ多

和之ヲ用エ此草多ク湿地ニ生スレテ東邦ニテハ山上大燥ナ
ラカル処ニ生スルモノヲ上品トス其味ハ他邦ノモノヨリ辛ク具
香強シ

殊用 此草死人ノ腐敗ヲ拒クテ以テドクハルセムシテ拒ク
ニ大ニ貴重ス且吾曾テ之ヲ聞ク一ニノ戦争ニ因テアラ
郊原ニ暴ラスモノアリ此草生スル所ノ処ハ其尸他人ニ
以スレハ腐敗スルヲ甚クシト又或人ノ言ニ此草身中ニ觸
ルハ其具觸ル、処ハ乃チ不仁スト

オハ草 大セーゲム一名セムヘルヒューム及ドントル

バールト

品類 形ヨクテス此セヘルヒュームノ三種ヲ録ス即チ
大ナルモノ、小ナルモノ、最小ナルモノ是今我々友ニ其大ナル
モノヲ記シ自餘ノ兩種ヲ右篇ニ説カシ此大ナルモノニ
兩種アリ其一ヲ不様ノセーゲムト云其ニヲドントルバ
トルト云尚別ニ種類アリ存ス

形状 オ一種ノ大セーゲム一名木様セーゲムハ一セエミン
高ク一尺半餘或三尺許又或ハ之ニ過ルモノアリ一ニノ

一説ニセトシ
梅ニルニイワシ
ゲルヤシ

脇枝ヲ分布ス茎ハ木株ニ堅靱ニ折レ難ク肥厚皮
以テ之ヲ包液ニ其皮面ニ落葉痕ヲ駐ルルコトヲルテイマルリ
ユスカラレアスレテ見ルカ如シ其此花ヲ保スル処ノ中^{中央}心茎モ
亦此ニニ彼ノ落葉痕アリ葉ハ脂氣アリテ肥へ液汁
満リ其長サハ一掌徑ニテ舌ノ状ノ如ク周圍微細ノ缺
刻アリ而シテ彼小枝ノ上稍ニ環ニスルコト少ク眼目ノ状
ニ似タリ花ノ其枝上ニ出シテ微細ノ長茎ニ分布スルコト
微小星ノ如ク駐リ續テ又微小子ヲ結ヒ而シテ其^茎枯消
ス根ハ諸方ニ蔓延ス○此草具協性ノエミ生スルハ終年

綠色ニシテ甚麼様ノ寒冷時ノ慘烈ナルモ猶消散
枯腐スルコトナシ是以テカリシヤレミアノイソノシテラシ
セムヘルヒユム和蘭ニ「エーウエフレイヘンテゲワス」ノ名ヲ
得タリ

アオニ種ノ大セリテユムトテ謂フンテレバルトハ其葉肥
厚ニテ液汁満リ其根ニ添テ地上ニ固附シ葉頭尖リテ
密着環駭スルコト眼目ノ相次序スルカ如シ又其根ノ左
右ヨリ許多ノ右件ノ眼状球ヲ出シ諸方ニ廣蔓シ是
ヨリメ又新ニ葉ヲ生シ環集シ其中心ヨリ一直茎ヲ出

シ葉アリテ纏結ス其茎一尺ニ内外シ葉ハ茎ノ上稍ニ
至ルニ後テ漸ク狭クメ且薄シ其ヨリメ又脇枝ヲ分チ
昔ヨリ暗紫花ヲ開テ下唇列次序ス根ハ鬚根多シ
B 猶多シ一種アリ其葉環着ノ密集固所シ其大
前種ニ似タレ小シ其両端極細毛或チ柔刺ノ如キモノ
生シ色暗緑ニメ其茎短ク花ハ黄色ニ輝ナシ
C 又一種アリ其葉綠色ニ白ラ帯ニ周圍ニ鋸齒ア
ルヲ甚タ密ナリ

力又一種アリ其葉小シ甚稠密ニ環集シ葉頭尖テ

上面暗赤周圍ニ毛アリ花ハ短茎ニ生シテ其色美紫

ナリ

出處

オ一種ノ大ペーヂユムハ多分東方諸國ニ生ス
シヤリシヤ及地中海島嶼謂ガシチヤローレス及リシ
テ自餘諸國ノ屋上或古壁等ノ処ニ自然ニ生スクル
シウスシユ又「イスハヤ」ポルトガル「ヒニモ多ク殖スト他邦ニテ
之ヲ陶器ニ保種ス北國ノ寒キ「ホーゴドイツ」和蘭ノ如キニ
至ハ自然ニ生スルモノヲ見ズ然ノミナラス其冬月慘烈
ノ氣ニ因テ消散枯腐スルカ為ニ之カユ夫ヲナシ以テ具

寒、冷ヲ拒テ長 敢テ久ク保持スルコトナシ

乃チ二種トシテバルバトハ 特ニイメリヤシニ生スルノミナラス

高ク生スル 和蘭ベリムスドイツラトシ 且多クシ 此草山工

石地古壁及古家ノ屋ニ生ス ○我嘗テ之ヲ聞スルニ毎

一處ニ殖セス右エニ生スルカ為メ 右其生エニ後テ具形

且異ナリ或ハ其葉ノ秋ホニメ其数多ク密着環生スル

モノアリ或ハ其数少ク濶アメ肥厚ナルモノアリ 或ハ其色

暗緑或ハ緑ニ輝ナクモノアリ ○此ヨリ三行ホト意

不詳

時侯 乃一種ノ大コトデユルハ 初トガールニテ 正月初或ハ二

月季ニ華ナク

乃二種トシテバルトハ 六月季或ハ月初ニ至テ 初テ具

花ヲ持保スル処ノ茎ヲ出ス 此ラハ則 四月或ハ春月ニ其

葉間ヨリノ其鬚ヲ彼是ニ萌出シ 其環集ノ蘆芽

ヲ見ハシ 其漸ク長大ナルニ後テ乃 繁衍盛茂シ

以テ其環集ノ形ヲナスナリ

名義 乃一種ノ大セリデユルハ 即チテヨスコリテスルノアトイソシクガ

ニ疑ベキモノトシ 廻リテシニロムヘルユームマグリユム一名セリテユム

マイクス^レト云^レアロ^レウス^レ之ヲ^レロタリス^レ凡^レセム^レル^レフロリユム^レ凡^レニ云^レフ
其^レ后^レ和^レ蘭^レニ^レエ^レト^レウ^レキ^レフル^レノ^レ井^レエ^レン^レデ^レ凡^レ又^レエ^レト^レウ^レキ^レフ^レレイ^レヘ^レシ^レテ
ゲ^レワ^レス^レ凡^レ又^レキ^レリ^レヤ^レシ^レニ^レサ^レグ^レア^レフ^レヘ^レメ^レテ^レモ^レシ^レス^レテ^レル^レゲ^レド^レモ^レ凡^レ又^レ
エ^レメ^レス^レニ^レ凡^レ云^レ

オ^レニ^レ種^レノ^レ大^レセ^レト^レ云^レハ^レ衆^レ人^レ及^レ菜^レ乃^レニ^レヲ^レテ^レシ^レ語^レニ^レソ^レウ^レイ^レス
バル^レバ^レト^レ云^レ后^レ和^レ蘭^レニ^レド^レン^レテ^レル^レバ^レルト^レノ^レ名^レヲ^レ得^レタ^レリ^レ乃^レ和^レ蘭
ニ^レホ^レイ^レス^レロ^レク^レト^レ云^レホ^レー^レゴ^レド^レイ^レツ^レニ^レハ^レウ^レツ^レウ^レユ^レル^レツ^レ凡^レゴ^レロ^レツ^レド^レン
テ^レル^レバ^レルト^レ云^レハ^レフ^レラ^レス^レニ^レヨ^レウ^レバ^レル^レベ^レト^レ云^レイ^レタ^レリ^レヤ^レシ^レセ^レム^レア^レレ^レヒ
ウ^レオ^レゴ^レグ^レヨ^レシ^レト^レ云^レイ^レス^レパ^レヤ^レシ^レシ^レノ^レム^レア^レレ^レヒ^レイ^レル^レハ^レヒ^レン^レテ^レフ

ト^レ云^レド^レン^レゲ^レル^レス^レニ^レホ^レン^レス^レテ^レリ^レイ^レト^レ云^レベ^レー^レム^レス^レニ^レヲ^レト^レシ^レス^レト^レ云^レ
○オ^レニ^レ種^レノ^レモ^レノ^レ衆^レ人^レハ^レヲ^レヨ^レム^レコ^レリ^レテ^レス^レノ^レコ^レテ^レイ^レレ^レド^レン^レト^レナ^レセ^レ凡^レ
此^レ草^レハ^レ我^レ他^レ草^レヨ^レリ^レカ^レケ^レテ^レセ^レム^レベ^レル^レヒ^レユ^レー^レム^レノ^レ種^レ類^レナ^レリ^レト^レス
此^レ草^レ植^レニ^レ滋^レ茂^レシ^レ青^レ色^レニ^レメ^レ冬^レ月^レノ^レ寒^レ氣^レ慘^レ烈^レナル^レモ^レ猶^レ毀
傷^レス^レル^レト^レナ^レシ

乃^レ。○乃^レ。此^レ点^レド^レン^レゲ^レル^レバ^レルト^レノ^レ一^レ種^レニ^レ其^レ出^レ處^レ及^レ形^レ状
ノ^レ差^レ違^レニ^レ因^レテ^レ種^レノ^レ異^レ名^レヲ^レ附^レス^レ凡^レ已^レニ^レ此^レ種^レナル^レト^レ明^レナ
ル^レ唯^レ是^レ好^レ草^レ家^レノ^レ腐^レ語^レト^レ云^レベ^レキ^レノ^レミ

性質 清冷オニ度具水質アルカヲ為メニ乾燥ノ功アリ

ふアリトイヘ元傳くメルノミ

三流 カレヒス云大コトゲユムドシゲルバルト諸種元燄熱

腫瘍ロリス及ロトホシトヲ治シ且シケンゲンヨリ来ル処ノ
燄熱及腫瘍大コトアリ○テヨスコリテス云就中シケンゲン
ノ眼目ニ下行スルヲ治スト○フリヒユス云ローデローペンテオー
ゲンヲ治ス是以傳貼スルニハ其葉ヲ用ヒ塗擦スルニハ其
液ヲ用ユト○此草亦燄痛及痛風ノ足部ニ来ルヲ治ス
單用シ又ハ大麥粉ヲ和シ貼ス○テヨスコリテス云日晝瀉
ヲ治スルニ大コトアリト○又云圓葉ヲ体中ヨリ驅除ス宜ク酒

和シ用ユベント○此液汁婦人ノ傷中ニ塗スルナリイ也其
崩流熱ヨリ来ルヲ止ム○葉ハ燄熱甚良ナリ何ト
ナレハ之ヲ口中含ムトキハ其大渴ノ忍ブベカララ治ス

附考 此木標セリゲユムハ其エニ由テ甚大ニ其中莖其大ニルモ

アリハルトガールニ之ヲエニサイオンシト云見カリシヤ語ノアトイソ
シト略相同シ多クステニインノ曠野海岸テイルラシユムノ
辺ニ生ス○ローベルシ又エンゲラトノ島ニ見シ処ノモノヲ記ス然
レ其葉他種如リ厚カラス且中莖ハモノイハズヨク莖ノ大セ
トゲユムシラウルクシ及ウオルフスメルノ如シト○カリシヤニ生スル

又是カヲホニイシニ生スルモノニメ 枝葉皮元ニ甚大ナリ○
又是等ノ類ノ「ポルトランド」及「モゼラント」ノソイドコントレイニ
生スルモノアレバ小ナリ○此草「ドバ子」ニシテ記スル処ノ外ニ「ロ
ベル」種ノ名ヲ以テ之ニ附ス即チ「ロバ」ガユムマユセナクユムメイ
ルチホリユム「ラリス」語ニテ「トリキユイマダメ」ニシテ「ゲルス」ニシテ「グ
シ」ト云○「コリユメル」ハ此草ヲアロエラ以テ一種トナシ「ロ
ヂユムアマリユム」ト云○「最」ハ「木」ニシテ「ドンデルバル」ト一
名「アラ」テローセハ是「ロベル」カ「セイリ」ニシテヨリ將來ニ処ニ
メ「藤」芽多ク且「根」節アリテ「枝葉」甚滋蔓ス「花」ハ黄色

ヲ帯テ「ブラ」テローセシ如シ全草ニ相似タリ此草又「イタ
リヤ」ヨリモ来ル

主治 此草ノ液汁ヲ單用シ又ハ「玫瑰油」ヲ和シ小巾子ニ浸

シ前項ニ貼スレハ「狂妄」熱ノ頭中ニアルヲ治シ且其疼ヲ
消散ス○釣メ之ヲ言ハハ此汁又「肝腎」ノ燥熱ヲ治スルニ
良ナリ○此草ヲ「搗」キ前項ヨリ「サシ」高ニ処ニ貼スレハ「衄血」ヲ止
ム○前ノ諸患ヲ治スル中ニモ「諸」燥熱ヲ治スルニ最良佳ナリ之ヲ
多用セシト要セハ宜ク此草ニ「ソ」ラトリユム及「ナ」トリカ「イ」レノ
汁ニ「ル」ケシ「ス」リイセシノ汁ヲ「底」ニ和シ用ユシ○「膏」トナシテ「ウ」ラルト

ヒールに及其熾極ヲ治ス○此草ノ露水ヲ搥ノ来ラサル前ニ
當テニヒ或也ハ服スルハ其極ヲ減智○此液汁能亦利ヲ
治シ且スロ子ヲ治シ、所謂ハランガイノ咬傷ヲ治ス○右
ノ汁ハ麥水トロセシ油トヲ和シ頭痛ニ貼メ佳リ○下ル
トガールノ婦人ハ此草ヲ取テ毛髮ヲ生シ且其齒ヲ磨メ美
ナラシムルニ用ユ

殊用 諸子ヲ將ントスル前ニ當テ此草ノ液汁ニ漬ス
一時ナレハ為鼠及自餘ノモノ、皆ナク其実ヲ鋸ブヤ美
ニ其茂茂ニ實タル其実ノ茂

オ九章 ハドンデルバールト

品類

此ドンデルバールト多分見知レ得ル處ニ種アリオ一ヲ
自性ノドンデルバールトト云オ二種ヲブラーテロセシ云

形状

オ一種ノモノハ小草ニシテ其莖甚細弱ニシテ長ク地上ニ
布蔓シテ葉ハ肥厚ニシテ液汁満チ小ニシテ長ク葉頭尖リ
其莖ニ纏絡ス其色緑ニシテ青ヲ帯ヒ其葉ヨリ又一直莖エラ
出ス其高リ一掌許ニシテ其上ニ黄花ヲ開クコト射状ノ如シ
根ハ鬚多シ

同雌

オ二種ノモノモハ小草ニシテ莖点甚細弱ニシテ高リハ一掌ニ過ズ

仙甲草 雄
子ナレクヤ

其茎上、小花ヲ開キ、廣多^ハ射状ヲナシ、^ハ前品ニ似タレ、其色
白ク、^ハ稍小ナリ、葉ハ茎ヲ周リテ生スレ、其數僅ク、^ハ小ニ長ク
具葉頭鈍シ、尖ヲス、圓長ニメ、コロケンタル^ハヨリ、尤^ハニ
ンアツペン、核ヨリ、小ニノ自餘形状異^ハル、^ハナシ、葉ハ茎ヲ周
リ生スレ、其色サク赤シ、帯ブ根ハ長ク、地上ニ、^ハ這蔓又シ、些少
ノ鬚アリテ、^ハ彼是ニ固着ス、

出處 オ一種ノモノハ、和蘭ニテハ園中ニ生シ、他邦ニテハ塘
ニ生スルヲ見ル

オ二種ノモノハ、凡テ古壁辺ニ、堤辺園中及高燥ノ処ニ

生ス

時辰 西種凡ニ夏月華ク

名義 オ一種ヲ、ギリシヤニ、^ハアトイソ^ハン、^ハコロン^ハト云、^ハラテン^ハニ、^ハセー

ナム^ハニ、^ハユス^ハ或、^ハセム^ハル^ハヒ^ハユ^ハム^ハニ、^ハユス^ハ元云、又或ハ、^ハギリシヤ^ハニ、^ハブレ^ハト
チ^ハヨシ^ハテ^ハオ^ハプロ^ハチ^ハヨシ^ハハ、^ハユス^ハラ^ハテン^ハニ、^ハセ^ハウ^ハニア^ハヒ^ハメ^ハニス^ハ元云、和蘭ニ
ケ^ハレイ^ハン^ハズ^ハン^ハデル^ハバル^ハルト^ハト云、^ハポー^ハゴ^ハドイツ^ハニ、^ハケ^ハレイ^ハン^ハハウ^ハウ^ハウ^ハタル^ハツ
ケ^ハレイ^ハン^ハズ^ハン^ハデル^ハバル^ハル^ハル^ハ云、^ハイ^ハタ^ハリ^ハヤ^ハニ、^ハセ^ハム^ハル^ハヒ^ハユ^ハス^ハニ、^ハノ^ハレ^ハト云、^ハアラ
ニス^ハニ、^ハケ^ハリ^ハク^ハウ^ハエ^ハマ^ハダ^ハメ^ハト云、^ハエン^ハデル^ハス^ハニ、^ハフリ^ハケ^ハマ^ハダ^ハム^ハト云
オ二種ハ、和蘭ニ、^ハブラ^ハー^ハテ^ハロー^ハス^ハト云、^ハ菜^ハ局^ハニ、^ハカ^ハラ^ハス^ハシ^ハユ^ハラ^ハミ^ハノ^ハル^ハト云

其「ミノル」ノ名ヲ所スルモノハ是ホトシ義ニノカメールウラルテル
ヲカラスレユラヨルト云フ以テ其分別ヲ為シカガテリト云フルニキ
ラリスル云イタリヤ「コグロラ」ガラ子ルロサ「ガラセル」云

性質 此草亦清涼ノ功アル「大ドンデル」バルト「如シ」又ヨク

「大ドンデル」バルト「用ル」処ノ諸病ヲ治ス

主治 オ一種ノ「小ドンデル」バルト「清熱」其良ナリ是

以諸添多ク之ヲ用ユ之ヲ「カラ」ト「或醋塩」ヲ加ヘ食ス
ル寸「ヨク」美ニ「適」セシム

附考 今載スル処ノ「ブラー」テローセハ是「ト」子ウズ「小ドンデル

「バルト」ニ充ルモノニメテ其功味一般ナレハ「ト」ベル「及自餘」ノ
人ノ「ユ」ール「ペ」ルニ充ル処ノ「ブラー」テローセ「種」ニ「ア」ス其
殖スル処其「葉」^ハ甚々「粗」ム「ト」ベル「言」ニ「毒質」アリ其
温暖皮膚ヲ「毀傷」ス其草ノ「分」別ヲ「檢」セシニ其味「辛」ク其「葉」
圓長ニテ「肥」ヘ「葉」頭「鈍」尖ナル「フ」虫ノ如ク「滿」枝ニ「蟻」懸ス以テ
徴スベシト「或人」之ヲ「ハ」ペ「キ」ル「シ」ト云「ト」ゴ「ド」イ「ウ」シ「ア」レ「イ」ン
ハ「ウ」ウ「ラ」ル「ウ」ウ「イ」ブ「レ」ト云「ア」レ「ゲ」ル「ス」ニ「リ」ル「テ」フ「リ」ク「マ」タム
「氏」モ「ウ」ス「タ」イル「レ」ル云

オ一種「ア」レ「イ」ン「ドン」デル「バルト」メ「ワ」ト「ゲ」コ「ロ」ル「テ」リ「ツ」ポ「ケ」ンス
此ハ

ロベリシノ記スル処ニシテリネソーンスコルピオイデスト云見ブラーデ
ローセルニ似タレ其葉銳利ニ其花ノ口ロスケケスノ端小スルコト
スコルピウソーンノ尾ノ如シ且其色スコルピウソーンコロイトシ一名ロクオシ
ノ花ノ如ク白色ニシテ其中心黃鬚アリ餘ハ他種ニ異ナラズ
オニ赤葉トシテバルト一名ドインパペキユルラケンス此ロベリ
録スルモノニ其言ニ砂堤及砂多キ確地ニ生ストソ葉ハ前品
似タレ其葉狭ク或ハ全葉血色ナルモノアリ或葉頭ニ血色
ナルモノアリ其葉長ク地上ニ蔓スシ其長サ一掌半取ハ之ニ過
ルモノアリ此ヨリメ美ナル黄花ヲ出シ射状ヲ相為全草

口内ニ合メバ辛熱ナレシコユールペトベルノ如ク其カラス
リテシシ之ヲアイソーンハトデスト云○ドバ子ウスシ云ク或
ハ莖葉共モホキモノアリト
オニホドシテバルトロベリ云高ク一掌其葉小ニシ
ホドシテバルトノ葉ノ如ナレシ圓ク花ハ黄色ニシ根ハ断テ
之ナレシ其味臭ナリ和蘭ノ園中ニ夥シト
オニ四種フラーデローセルノヘルトセイプレスト云此草ロベリハ
カマロテイニスノ一種トシフルミキユラタト異名ス此草終冬枯ズ
シテロベリノ種類ノ如シ或人ノオニ種ノアンティルリス

光ツエドリスノ山砂堤ニ殖シ許多ノ小枝ヲ分チ高サニ
尺許又之ニ過ルモノアリ屈曲ノ木如ク色灰色是ヨリタ許多
ノ厚キ暗綠色ノ葉ヲ出シ其色終年変セス形小ドンデルバ
ルトトハルトセイプレストノ間ニアリ根ハ甚堅ク須多シ此草
アリス國及自第ノ中國ノ如ク海辺遠キ処ニ生スル其葉ノ
液汁鹹キヲカリシノ如シ此草又ニ種アリ西種ハ多枝ナリ
トイヘ凡其大ナル種ハ葉白ク密着綴附ノブラーデローセ
ヨリ大ナリ其小ナル種ハ其葉密着若ク纖長テ圓シ花ハ
綠色ニメドイセントコノプレスニ似タリ此草又ハルミユクマカマロ

テイスジヨスコリテスミノル一名アリアカアレキカンデガアコルチ
ユレニシツ

才五ヲ石地ニ生スル山トシデルハルトト云此種ハロトベルノ載スル
処ニメラテンレニロトガ云ペトレクシユムモシタヌト云此美草ニ多
分石地ニ殖シ一草數莖ヲ出シ其相環集附綴スルトトシデル
ハルトトノ如ク又或ハヨク小ナル山生ノトイヘルコロイドニ似タリ
花冠續~~ハ~~ 胚ニ花秋クメ尖レルト舌尖ノ如シ其中央ヨリ小莖
ヲ萌出シ二指或一掌許ニ小黄花ヲ開クト小ドンデルハルト
ニ似タリ花冠續~~ハ~~ シキルテケニスラ止ルトサクカラスニ似タリ

或人此草ノ味氷魚ノ燥ナルカ為ニ假リニコトヨクテス
コイルロンノ種類ニ充ツ今之ヲ和蘭ノ園中ニ見ル

オホラセ方香小ドンテバールト云此草多クテイロルノ山

ニ生シ其花芳香アリテ其色紫ナルコト殆ントステルアレテ

キヌノ如ニモ甚軟草小ドンテバールトノヨク常ノ種類ハ

タトヘ此ヨリ小ナルモ甚相形似ス庶レ其色ノ白甚紫ナル
コト稍相勝レリ

オセラ異種ノドンテバールト云或人ノヲコトフカレ一種

先テ、リユナリアト名ルモノナリ葉肥厚ニ油氣アリ此草老

ニ至レハ年々消散スレモ葉子共ニ少クヨク常ノドンテバール

ト似タリ四月其葉ヲ生シ形ハルセイヤ子ニ似タレトモ

葉頭缺刻シ目暉ニ向ヘハ其両端ガク銀色ヲ見ハレ且

次第スルコト殆ント眼水ノ如シタヤヨク常ノドンテバールト

似タリ五月有葉茎ヲ出シ屈曲ノサク下方ニ傾マサク小

枝ヲ分ツ其色赤シ六月ニ至テ輝光アリ白キ星状ノ小

花ヲ開キ八月其星状花謝テ五球ヲ止メ子ヲ其中ニ

結ブ

別種ノ小ドンテバールト高學士カロリユスクルシウズ其異ノ草

譜才四卷四十一章 此草ノ種類ヲ載挙ス我クテ次章
ノ所考ニ説カン

主治 大トシバノル止 其功相似タレ 刺戟セズ且發泡
セズ但別ニ一種ノ味アリサク水氣アリテ收斂ニ断ラ辛
抵ナラズ知ルベシ 寒熱ノ相代用スベカラルヲ今我其味
ヲ徴センニ 久ク嘗ルモ 曾テ刺戟スルヲナシ

仙田首十一種
ニルバノイニマヤ

オ十音 也ムルヒユムノオ三種 口ユールベドペル

形状 此ノ子亦且依キ小草ニ 其莖細弱ニ 稔シキリ

許多ノ小葉ヲ出ス 其葉且小ニメ厚ナク 銳利ニシ

汁満ツ花ハ其莖ノ上面ニアリ 小ニメ 其色黄ニ 根ハ

多シ

出處 此草石多ク乾土及瘠地或古壁ノ角ノ処ニ生ス

此草終年綠色ナルガ為メ 也ムルヒユム一名エーウヲフル

イハニテコロイトノ中ニ列ス

時侯 夏月華ク

名義

此草和蘭ニシテルベールト云ハゴドイッニマウルヘ
スセルトカスセントレングレ云フランスマンハイテオイセアウレト云ヒ
エゲルスニスト子コッポレ云スア子ホレ云○此草和蘭スコリ
ニスハアールソーンニヤ三種ニ充タレテ或人ヲテシニロムヘ
ルヒームテルキムト云アリニ云テシニイルセブラレ云アレダラ
ク子アギリアレ云又テレヒオン云云猶一種別ニアレダラク子ア
ギリアレ或一名「テレヒオン」ト云モノアリ○斯ニ尚或人此草ハ
セレイ子シニ似タルヲ以テ「テヨスコリ」ト云モノ云ムルヒエー
ムノヤ
三種ナト思フモノアリ是レテヨスコリト云モノノ説ヲ詳ニセザルカ

為メナリ彼テヨスコリト云モノノ説ニハ唯是ニ葉ノ厚^{アツカ}サヤリ相

似タト云ノミニ其葉ノ全ク相似タリト云ニアラズ

性質

辛^ク辣^シニ且温^ク暖^クニス外傳ルハ皮膚ヲ赤ク且ノ
泡ヲ發セシム且瘡瘍及腫^レ腫^レヲ起脹ス

主治

テヨスコリト云此草一ニノ油臍ノモノニ和シ貼スレハ
胸瘍^ヲキリイ此腫ヲ散シテ作テ治ス○此草ノ液汁ハ
醋或自餘ノ油臍ノモノヲ和シ服スレハ諸ノ粘稠及胆樣汁
ヲ吐下ス由之又四日熱及此等ノ久病ヲ治ス○又諸毒ヲ
飲タルモノ之ヲ服スレハ吐下ス法ニ用込ニヨル

附考

北邦にてシヨールボイグ一名ブラーウエシイクテト名ル
甚難治ノ病アリ此草其病ニ大功アリ是以今此草ノ種
類ト高學士カカリユスクルシウスノ記スル小同シテルガ
種類トヲ論ノ其疑團ヲ解散セシ凡リ此ブラーテローセン
種類ハ其味辛ク其功大ニシヨールペルビ似テ同シテル
ルトリ主治スル処ノ補缺ハ適當セサルナリ此事我巳
前ニ説ク如シ○ケヨスコリテスニ此草ナリ二種ニ分
スベキヲ知レリ其言ニ云一種ハ辛ク一種ハ否ズ但ヨク大
ナルバールト似タリ以テ其缺乏ニ代用スヘシ是ニ辛味
トハ別種ニ大旨アルナシト○大學生師ハゴラスコロナシ
ノ考ニ此シヨールペルビハアライソレン一名トレン
バールトノ種類ニアラス其質モ寒冷ニ全ク辛味ナラズ但
其形ハ相似タルニ乃チ單クアリニスノ其味亦ニ丁四卷ニ
載スル処ノ大クテイリユスノオニ種或ニ種ノモノニ免ベシ
大先生カカリユスノ考ニ同一般ナリト○須ク知ルヘシ
同シテルガ種類ハ大小共ニテヨスコリテスノ如クセイヘ
イルラトト名ルモノナリトヲ其名ル所ノモノハ是
其ノ葉ノ肥厚ナリ密着固附スル丁毛髮ノ如クヲ以テ
取ルルノミ

トハ別種ニ大旨アルナシト○大學生師ハゴラスコロナシ
ノ考ニ此シヨールペルビハアライソレン一名トレン
バールトノ種類ニアラス其質モ寒冷ニ全ク辛味ナラズ但
其形ハ相似タルニ乃チ單クアリニスノ其味亦ニ丁四卷ニ
載スル処ノ大クテイリユスノオニ種或ニ種ノモノニ免ベシ
大先生カカリユスノ考ニ同一般ナリト○須ク知ルヘシ
同シテルガ種類ハ大小共ニテヨスコリテスノ如クセイヘ
イルラトト名ルモノナリトヲ其名ル所ノモノハ是
其ノ葉ノ肥厚ナリ密着固附スル丁毛髮ノ如クヲ以テ
取ルルノミ

クルシウズノ小ドシテルハイルトノオ一種ハ即ハルミキユラリスト
異名スルモノナリ ○オ二種ハ一種ノモノニ似タレバ其ノ葉厚
ク且ツ多シ ○オ三種ハクルシウズ之ヲロトシテユムバリユストト云フ
其ノ葉餘種ノ如クナレバサクモアリ其花五瓣ニシテ紫色或ハ人色
ニシテ内ニ其アリ居其瓣ノ多サノ先緑色居紫ノホトシケシ
ヲ止メ子ヲ具内ニ結ブ葉ハ形ヨリユールペールノ如クナレバ小ニシ
其味ニチカラズ ○オ四種ハコラシニテ多ク蔬菜ニ用エ其葉
圓ク厚クノ尖リ液汁多ク其花黄ナリ ○オ五種ハ四種ノ
モノニ似タリ其枝尾ニ皺積アリテ花是ヨリ開ク是我巳ニ

前ニ説ク処ナリ ○オ六種ハクルシウズ之ヲロトシテユムニシテ
セリス云シヘアルピニムセクスチユト云多枝尖葉其味甚燥ニ
其花黄ニシテ禪ナシ ○オ七種ハ其葉少ク厚クメシユール
ペールノ如ク白クノ軟ニ味辛カラカレバ水気多クメハドシテ
バールトラ諸種如シ其花白ク餘ハヨリユールペールノ如ク
シテ其色黄ナリ ○オ八種ハドシテ子ウスノ尋常ノシユール
ペールトナリ ○オ九種ハ其ノ葉密着綴附シテ子クメ其小
灰色ニシテ青ラ帯フ餘ハ全ク子モスノ如シ其味酸ク每茎
五瓣ノ三花ヲ開キ其色白ク内ニ黄黄アリ此草廣ク地上ニ

布蔓マ○オナ種ハ其葉餘種ヨリハ稍大ニ長ク厚ク
周圍ニ刺アリ其味先酸ニ后辛苦ナリ茎ハ毛多シ其
上ニ小白内黄ノ五瓣ノ花ヲ開クヲ冠状ノ如シ○オナ種ハ
其葉長狹ニ堅ク其色緑ニ滑澤其味先酸ニ而美ナ
ラズ一茎ニ白キ一花或ニ花ヲ出メ前ノ諸種ヨリ大ニ五瓣ニ
中又黄ナリ其形心藏ノ如シ○オナ二種ハ其葉狹ク厚ク
毛アリ其^下環集延陽スルヲハコロイトトシノ如シ其味
カク飲收スレバ少ク苦シ茎ニ黄色ノ五花或六花ヲ開キ
花謝ノ后尖莢アリテ微赤色ノ蒴子ヲ其内ニ結ブ此草

ロベリシ語載ス○オナ三種ハ許多ノ葉アリ深クニ
断ステ殆トヘルトセイプレス葉ノ如クナレバ小ニ綠色ニ毛
ナシ其味甚燥シ収斂ス后三指横徑ノ直茎ヲ出シ每茎
五瓣ノ一花ヲ開ク其色黄ナリ其蔓延シテ諸方ニ布在スル
トモツスノ如ク取リ

主治

此草諸種ハ脾ノ諸患ヲ治シ及諸結腫ヲ治スルニ

大功アリ其味ノ辛熱ナルト其葉形トニ因ルモ点知ルベキノ之且
我前ニ云フ如クシアルホイクニ此草ヲ水煎シ其水ヲ日ニ一
ニ服スルモ猶長服ノ大功アルヲ得タリ尚其功ノ烈強ナラシ

コトヲ要セハ宜ク其液汁ヲ服スルニ且ツ胃身^及中ノ粘稠熱
液ヲ即時ニ吐出ス○此レハ軟弱ノ人ニ於テハ其過度ノ吐ニ因
テ其内部ノ脉管ヲ破綻シ其音却テ其功ニ代ルカ為ニ
一時ニ多ク服スヘカラス○諸血腫ノ口内或ハ此ニ效奏スルモ此
草ノ煎汁ヲ以テ洗ヘハ即治ス○製煉家ハ多ク此草ヲ取テ
其製煉ノ用ニ供シ之カエスタラゲト^油水^及膏^日ヲ造リ以テ
スワルテフルブランドブルドヨリ来ル久難治ノ病ヲ療シ以テ醫
術ノ奇品^疾苦ノ一大緊要ト物トス

8
京本 165-186

六十四卷

